

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース			教科担任					
国語	現代文B (現代文B(前半))	2	2年次			佐藤和範・白石幸恵・若林 一					
使用教科書	精選 現代文B (教育出版)		使用副教材	精選 現代文B 学習課題ノート(教育出版) 大学入学共通テストへのアプローチ 実用的な 文章と記述式問題(いづな書店)							
科目の目標						道徳教育のねらい					
近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって国語力の向上を図り、人生を豊かにする態度を育てる。						人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。					
市函DP(本校で身に付けさせたい10の資質・能力)											
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	随筆	○		○			○				
2	評論	○	◎	○							
3	小説	○	○	○		◎	◎				
4	詩歌	○		○			○		○		○
5	表現	○	○	○	◎	○	○		◎		○
6	文学史	○		○				○			
7	語彙	○		○				○			
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力		書く能力		読む能力		知識・理解			
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。						
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		活動の観察①(授業に対する取り組みの姿勢全般)	活動の観察②(グループ学習時の発表内容や人の意見を聞く態度)	記述の確認及び分析(ノート、ワークシート、原稿用紙等)	定期考査に対する取り組み姿勢と結果	小テストや課題確認テストに対する取り組み姿勢と結果	週末課題や長期休業中の課題に対する取り組み姿勢と成果				
	関心・意欲・態度	◎	○		○	○	○				
	話す・聞く能力		◎								
	書く能力			◎							
読む能力				◎							
知識・理解					◎	◎	◎				

現代文B 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4月 (4)	課題確認テスト(1) 評論一(3)	生活の中の芸術の役割について考えを深める。	ミロのヴィーナス(3)		
	5月 (8)	共通テスト対策①(2) 小説一(6)	共通テスト対策の導入として第1問を構成する四つの要素についてそれぞれの特徴を知り、問題演習に取り組む。 寓意を通して、人間存在について考えを深める。	実用的な文章、会話文と統計資料、記述式問題(2) 山月記(6)		
	6月 (8)	中間考査(1) 評論二(7)	人間と社会との関係について、自分の考えを深める。	市民社会化する家族(4) 言葉と貨幣(3)		
	7月 8月 (6)	詩歌(3) 表現のスイッチ1(1) 共通テスト対策②(2)	詩歌の表現について特色を捉え、作品を作ったり鑑賞文を書いたりする。 記述式問題を解くための正確な読解方法を身に付ける。	竹(1) 小景異情(1) 現代の短歌、現代の俳句(1) 言葉を吟味して短歌を作ろう(1) 情報・報道、記録・報告についての問題(2)		
	9月 (8)	期末考査(1) 評論三(7)	自己のアイデンティティの形成と他者との関わりについて考えを深める。	衣服という言葉(4) 他人の中の自分(3)		
	10月 (8)	小説二(8)	明治という時代と登場人物の行動を読み取る中から、人間の精神のあり方について考えを深める。	こころ(8)		
	11月 (8)	評論四(7) 中間考査(1)	人間と世界の関係性について、自分の考えを深める。	地図の想像力(4) 資本主義と社会的欲望(3)		
後 期	12月 (6)	小説三(6)	時代の背景を踏まえて、人物の描写や心理の推移を読み取り、人間の生き方について考えを深める。	バックストローク(6)		
	1月 2月 3月 (14)	共通テスト対策③(2) 期末考査(1) 評論五(11)	要点を押さえ、解答に盛り込むべき内容を整理・確認する。 文章の書かれた時代背景と現代社会に通じる普遍的な課題について考え、発展させる。	ルール・契約、企画・提案についての問題(2) 「である」と「する」こと(6) 「安楽」への全体主義(5)		

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
数学	数学ⅡB	6	2年次・理系α				加藤経・加藤真・澤邊・寺尾				
使用教科書	東京書籍「数学Ⅱ Advanced」 東京書籍「数学B Advanced」		使用副教材	東京書籍「Standard Buddy WIDE 数学Ⅱ+B 演習ノート」 数研出版「チャート式改訂版基礎からの数学Ⅱ+B」							
科目の目標							道徳教育のねらい				
<p>「方程式・式と証明」、「図形と方程式」、「三角関数」、「ベクトル」、「指数関数と対数関数」、「微分法と積分法」、「数列」について理解させ基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。2クラス3展開の習熟度別少人数編成の授業により、きめ細かな指導を行う。課題、単元テスト等の取り組みを徹底し、基礎基本の定着を図ると共に、応用問題に果敢に取り組む姿勢を養う。また、速い進捗で進み、早期に数学ⅡB演習に取り組む。</p>							<p>数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度や、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てることで、また、生徒が事象を数理的に考察し、道筋を立てて考え、表現をする能力を高めることで、道徳的判断力を養う。</p>				
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1 基礎力	2 思考力	3 主体的 学習力	4 傾聴力	5 自己理解・ 自己管理 力	6 他者 理解力	7 計画 実行力	8 発信・ 表現力	9 ストレス コントロール	10 実践力
1	数学Ⅱ 1章 方程式・式と証明(2次方程式)	○	○	○	○				○		○
2	数学Ⅱ 1章 方程式・式と証明(高次方程式)	○	○	○	○				○		○
3	数学Ⅱ 1章 方程式・式と証明(式と証明)	○	○	○	○				○		○
4	数学Ⅱ 2章 図形と方程式(点と直線)	○	○	○	○				○		○
5	数学Ⅱ 2章 図形と方程式(円)	○	○	○	○				○		○
6	数学Ⅱ 2章 図形と方程式(軌跡と領域)	○	○	○	○				○		○
7	数学B 2章 ベクトル(平面上のベクトル)	○	○	○	○				○		○
8	数学B 2章 ベクトル(ベクトルの応用)	○	○	○	○				○		○
9	数学B 2章 ベクトル(空間におけるベクトル)	○	○	○	○				○		○
10	数学Ⅱ 3章 三角関数(三角関数)	○	○	○	○				○		○
11	数学Ⅱ 3章 三角関数(加法定理)	○	○	○	○				○		○
12	数学Ⅱ 4章 指数関数・対数関数(指数関数)	○	○	○	○				○		○
13	数学Ⅱ 4章 指数関数・対数関数(対数関数)	○	○	○	○				○		○
14	数学Ⅱ 5章 微分と積分(微分係数と導関数)	○	○	○	○				○		○
15	数学Ⅱ 5章 微分と積分(導関数の応用)	○	○	○	○				○		○
16	数学Ⅱ 5章 微分と積分(積分)	○	○	○	○				○		○
17	数学B 1章 数列(数列)	○	○	○	○				○		○
18	数学B 1章 数列(漸化式と数学的帰納法)	○	○	○	○				○		○
19	数学ⅡBの応用演習①	○	○	○	○				○		○
20	数学ⅡBの応用演習②	○	○	○	○				○		○
21	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
22	課題提出	○	○	◎		○		○		◎	○
23	考査と単元テスト	○	○					○		◎	○
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方			数学的な技能			知識・理解			
	<p>数学的活動を通して、各単元における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。</p>	<p>数学的活動を通して、各単元における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。</p>			<p>数学的活動を通して、各単元において、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。</p>			<p>数学的活動を通して、各単元における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。</p>			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料				
	関心・意欲・態度	○	◎				○				
	数学的な見方や考え方	◎	○	○	○	○	○				
	数学的な技能	○	○	○	○	○	◎				
知識・理解	○	○	◎	◎	◎	○					

学習指導計画					実施状況	
月 (時 数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単 元 実 施	実 施 反 省	
前 期	4(18)	数学Ⅱ 第1章 方程式・式と証明 (18) 5月初旬に単元テスト	数学Ⅱ 第1章のねらい 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	第2節 2次方程式 (6) 第3節 高次方程式 (6) 第4節 式と証明 (6)	4月	前 期
	5(24)	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 (29)	数学Ⅱ 第3章のねらい 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第1節 点と直線 (11) 第2節 円 (11) 第3節 軌跡と領域 (6)	5月	
	6(23)	6月上旬に前期中間考査		前期中間考査 (1)	6月	
	7(10)	数学B 第2章 ベクトル (28) 夏休み前に単元テスト	数学B 第1章のねらい ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第1節 平面上のベクトル (15) 第2節 ベクトルの応用 (12) 単元テスト (1)	7月	
	8(11)	数学B 第2章 ベクトル (11) 8月夏休み明け 課題確認試験	数学B 第2章のねらい ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第3節 空間におけるベクトル(7) (柳星祭⇒進研模試7月) 第3節 空間におけるベクトル(4)	8月	
	9(20)	数学Ⅱ 第4章 三角関数 (20) 9月初旬前期期末考査	数学Ⅱ 第4章のねらい 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 三角関数 (11) 前期期末考査(2) 第2節 加法定理 (7)	9月	
後 期	10(18)	数学Ⅱ 第4章 指数関数・対数関数 (15) 10月中旬単元テスト	数学Ⅱ 第4章のねらい 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 指数関数(6) 第2節 対数関数(8) 単元テスト (1) (見学旅行)	10月	後 期
	11(24)	数学Ⅱ 第5章 微分法と積分法 (27) 11月中旬単元テスト	数学Ⅱ 第5章のねらい 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第1節 微分係数と導関数(6) (進研模試11月) 第2節 導関数の応用 (8) 第3節 積分 (12) 単元テスト (1)	11月	
	12(17)	数学B 第1章 数列 (30) 12月上旬後期中間考査	数学B 第1章のねらい 簡単な数列とその和及び漸化式について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 数列 (15) 後期中間考査 (2)	12月	
	1(13)	1月冬休み明け 課題確認試験		第2節 漸化式と数学的帰納法(13) (進研模試1月)	1月	
	2(17)	数学ⅡBの応用演習① (17) 2月下旬後期期末考査	数学ⅡBの内容全体について、センター試験・2次試験に対応できる実力養成のため、応用問題演習に取り組む。	節の分割なし(15) (大学入学共通テスト対応模試2月) 後期期末考査 (2)	2月	
3(15)	数学ⅡBの応用演習② (15)	数学ⅡBの内容全体について、センター試験・2次試験に対応できる実力養成のため、応用問題演習に取り組む。	節の分割なし(14) 単元テスト (1)	3月		

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
国語	古典B (文系古典B(前半))	3	2年次文系				佐藤和範				
使用教科書	教育出版 精選古典B古文編 教育出版 精選古典B漢文編		使用副教材	数研出版 八訂版体系古典文法 尚文出版 新明説漢文 尚文出版 新成古典大学入学共通テスト対策版 他							
科目の目標						道徳教育のねらい					
古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。						人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。					
市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)											
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	古文 説話	○		○							
2	古文 随筆	○		○							
3	古文物語	○		○							
4	古文 日記	○		○					○		
5	古文 軍記	○		○	○						
6	古文 和歌	○		○			○				
7	古文 評論	○	○	○							
8	古文 文法	○		○				○		○	
9	古文 文学史	○		○				○			
10	漢文 小話	○		○						○	
11	漢文 史伝	○		○							
12	漢文 小説	○	○	○			○				
13	漢文 思想	○		○		◎	○			○	
14	漢文 文章	○		○							
15	漢文 漢詩	○		○	○		○				
16	漢文 句法	○		○				○		○	
17	漢文 重要語	○		○				○			
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力			書く能力		読む能力		知識・理解		
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。			相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。		文章を的確に読み取ったり目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。		伝統的な言語文化及び言葉の特徴やよきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。		
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		活動の観察① (授業に対する取り組みの姿勢全般)	活動の観察② (グループ学習時の発表内容や人の意見を聞く態度)	記述の確認及び分析 (ノート、ワークシート、原稿用紙等)	定期考査に対する取り組み姿勢と結果	小テストや課題確認テストに対する取り組み姿勢と結果	週末課題や長期休業中の課題に対する取り組み姿勢と成果				
	関心・意欲・態度	◎	○		○	○	○				
	話す・聞く能力		◎								
	書く能力			◎	○	○	○				
読む能力				◎	○	○					
知識・理解					◎	◎	◎				

古典B（文系） 授業計画

授 業 計 画				実 施 状 況		
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
後 期	4	古文 物語 (10)	・文学史的な知識や「敬語」についての基本的な知識を整理する。 ・物語世界を追体験し、登場人物の心情を捉えながら読解する。	古典文法「敬語」(2) 『竹取物語』『かぐや姫の昇天』(5) 『伊勢物語』『芥川』(3)		
	5	漢文 史伝・名文 (8)	・漢文の基礎及び句法についての知識の確認をする。 ・漢文作品の特徴的な世界観を体感しながら読解する。	『十八史略』『先從隋始』(4) 『唐宋八家文読本』『雑説』(4)		
		古文 和歌 (4)	・和歌の修辞法の知識を整理する。 ・『万葉集』の特徴を捉えながら、作品の鑑賞をする。	古典文法「修辞法」(1) 『万葉集』(3)		
	6	前期中間考査 (1)		前期中間考査 (1)		
		古文 説話 (7)	・説話の展開や登場人物の心情の変化に気をつけながら、その面白さを味わう。	『沙石集』『児の知恵』(3) 『宇治拾遺物語』『袴垂と保昌』(4)		
	7	夏季休業明けテスト (1)		夏季休業明けテスト (1)		
	8	入試問題研究Ⅰ (5)	・基本的な文法事項に気をつけ、逐語訳しながら正確に読解する。 ・サブテキストを使いながら、大学入学共通テストに対応できるよう新傾向問題について研究する。	『十訓抄』(1) 『宇治拾遺物語』(1) 『おくの細道』(1) 『玉勝間』(1) 新傾向問題の研究 (1)		
		漢文 故事・逸話 (8)	・漢文の基礎及び句法についての知識の確認をする。 ・それぞれの作品を通して、作者が伝えようとしていることを理解する。	『世説新語』『漱石枕流』(2) 『歴代名画記』『画竜点睛』(2) 『後漢書』『梁上君子』(2) 『西京雜記』『王昭君』(2)		
	9	前期期末考査 (1)		前期期末考査 (1)		
		入試問題研究Ⅱ (4)	・基本的な句法に気をつけながら、正確に読解をする。 ・サブテキストを使いながら、大学入学共通テストに対応できるよう新傾向問題について研究する。	『列女伝』(1) 『戦国策』(1) 『蒙求』(1) 新傾向問題の研究 (1)		
	10	古文 随筆 (11)	・随筆を通して、作者の人柄やものの見方、考え方について考える。 ・文学史的事項を整理する。 ・助詞について体系的に整理し確認する。	『徒然草』『家居のつきづきしく』(4) 『方丈記』『行く川の流れ』(3) 『枕草子』『中納言参り給ひて』(2) 古典文法「助詞」(2)		
	11	古文 歌物語 (6)	・歌物語の特徴をつかみながら、内容を和歌の鑑賞に結びつける。	『伊勢物語』『狩の使い』(4) 『大和物語』『峰のみみぢ葉』(2)		
漢文 史記 項羽と劉邦 (12)		・司馬遷が史記を著すにいたった経緯を理解する。 ・句法に注意しながら正確に内容を捉え読解する。 ・登場人物の行動やその背景にある真理を考える。	『史記』『鴻門之会』(8) 『史記』『四面楚歌』(2) 『史記』『項王の最期』(2)			
12	後期中間考査 (1)		後期中間考査 (1)			
	古文 日記 (8)	・日記文学を読んで、当時の生活の様子を想像し、ものの見方、考え方、感じ方を理解する。 ・まぎらわしい語の識別ができるようその解答手法を理解する。	『更級日記』『東路の道の果て』(3) 『更級日記』『源氏の五十余巻』(3) 古典文法「まぎらわしい語の識別」(2)			
1	冬期休業明けテスト (1)		冬期休業明けテスト (1)			
	古文 作り物語 (8)	・源氏物語を正確に読解し、登場人物の行動や心情がどのように描かれているのか考える。 ・文章中のまぎらわしい語について理解する。	『源氏物語』『光源氏の誕生』(3) 『源氏物語』『若紫との出会い』(5)			
2	漢文 文 (4)	・話の内容を、構成や展開に即して的確に捉える。 ・基本的な句法について理解する。	『陶淵明集』『桃花源記』(4)			
	後期期末考査 (1)		後期期末考査 (1)			
3	入試問題研究Ⅲ (4)	・サブテキストを使いながら、大学入学共通テストに対応できるよう新傾向問題について研究する。 ・作問者の気持ちを想像しながら、問われるポイント理解する。	『堤中納言物語』(1) 『和歌』(1) 『説苑』(1) 『唐詩選』(1)			

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
国語	古典B (理系古典B(前半))	2	2年次理系				若林 一・白石幸恵				
使用教科書	教育出版 精選古典B古文編 教育出版 精選古典B漢文編		使用副教材	数研出版 八訂版体系古典文法 尚文出版 新明説漢文 尚文出版 基礎古典大学入学共通テスト対策版 他							
科目の目標						道徳教育のねらい					
古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。						人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。					
市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)											
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	古文 説話	○		○							
2	古文 随筆	○		○							
3	古文 物語	○		○							
4	古文 日記	○		○					○		
5	古文 軍記	○		○	○						
6	古文 和歌	○		○			○				
7	古文 評論	○	○	○							
8	古文 文法	○		○				○		○	
9	古文 文学史	○		○				○			
10	漢文 小話	○		○						○	
11	漢文 史伝	○		○							
12	漢文 小説	○	○	○			○				
13	漢文 思想	○		○		◎	○			○	
14	漢文 文章	○		○							
15	漢文 漢詩	○		○	○		○				
16	漢文 句法	○		○				○		○	
17	漢文 重要語	○		○				○			
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力			書く能力		読む能力		知識・理解		
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。			相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。		文章を的確に読み取ったり目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。		伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。		
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		活動の観察① (授業に対する取り組みの姿勢全般)	活動の観察② (グループ学習時の発表内容や人の意見を聞く態度)	記述の確認及び分析(ノート、ワークシート、原稿用紙等)	定期考査に対する取り組み姿勢と結果	小テストや課題確認テストに対する取り組み姿勢と結果	週末課題や長期休業中の課題に対する取り組み姿勢と成果				
	関心・意欲・態度	◎	○		○	○	○				
	話す・聞く能力		◎								
	書く能力			◎	○	○	○				
	読む能力				◎	○	○				
知識・理解					◎	◎					

古典B（理系） 授業計画

授 業 計 画				実 施 状 況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
後 期	4	古文 物語 (11)	・文学史的な知識や「敬語」についての基本的な知識を整理する。 ・物語世界を追体験し、登場人物の心情を捉えながら読解する。	古典文法「敬語」(2) 『竹取物語』「かぐや姫の昇天」(5) 『伊勢物語』「芥川」(3) 和歌の修辞(1)	
	5	漢文 史伝・名文 (4)	・漢文の基礎及び句法についての知識の確認をする。 ・漢文作品の特徴的な世界観を体感しながら読解する。	『十八史略』「先從隗始」(4)	
	6	前期中間考査 (1)		前期中間考査 (1)	
	7	古文 説話 (4)	・説話の展開や登場人物の心情の変化に気をつけながら、その面白さを味わう。	『宇治拾遺物語』「袴垂と保昌」(4)	
		夏季休業明けテスト (1)		夏季休業明けテスト (1)	
	8	入試問題研究 I (4)	・基本的な文法事項に気をつけ、逐語訳しながら正確に読解する。 ・サブテキストを使いながら、大学入学共通テストに対応できるよう新傾向問題について研究する。	『古本説話集』(1) 『花月草紙』(1) 『おくの細道』(1) 新傾向問題の研究 (1)	
		漢文 故事・逸話 (4)	・漢文の基礎及び句法についての知識の確認をする。 ・それぞれの作品を通して、作者が伝えようとしていることを理解する。	『歴代名画記』「画竜点睛」(2) 『後漢書』「梁上君子」(2)	
	9	前期期末考査 (1)		前期期末考査 (1)	
		入試問題研究 II (3)	・基本的な句法に気をつけながら、正確に読解をする。 ・サブテキストを使いながら、大学入学共通テストに対応できるよう新傾向問題について研究する。	『蒙求』(1) 『世説新語』(1) 新傾向問題の研究 (1)	
	10	古文 随筆 (7)	・随筆を通して、作者の人柄やものの見方、考え方について考える。 ・文学史的事項を整理する。 ・助詞について体系的に整理し確認する。	『方丈記』「行く川の流れ」(3) 『枕草子』「中納言参り給ひて」(2) 古典文法「助詞」(2)	
	11	古文 歌物語 (4)	・歌物語の特徴をつかみながら、内容を和歌の鑑賞に結びつける。	『大和物語』「嫉捨」(4)	
		漢文 史記 項羽と劉邦 (8)	・司馬遷が史記を著すにいたった経緯を理解する。 ・句法に注意しながら正確に内容を捉え読解する。 ・登場人物の行動やその背景にある真理を考える。	『史記』「鴻門之会」(8)	
12	後期中間考査 (1)		後期中間考査 (1)		
	古文 日記 (5)	・日記文学を読んで、当時の生活の様子を想像し、ものの見方、考え方、感じ方を理解する。 ・まぎらわしい語の識別ができるようその解答手法を理解する。	『更級日記』「東路の道の果て」(3) 古典文法「まぎらわしい語の識別」(2)		
1	冬期休業明けテスト (1)		冬期休業明けテスト (1)		
	古文 作り物語 (4)	・源氏物語を正確に読解し、登場人物の行動や心情がどのように描かれているのか考える。 ・文章中のまぎらわしい語について理解する。	『源氏物語』「光源氏の誕生」(4)		

2	漢文 文 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容を、構成や展開に即して的確に捉える。 ・基本的な句法について理解する。 	『陶淵明集』 「桃花源記」 (4)	
	後期期末考査 (1)		後期期末考査 (1)	
3	入試問題研究Ⅲ (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・サブテキストを使いながら、大学入学共通テストに対応できるよう新傾向問題について研究する。 ・作問者の気持ちを想像しながら、問われるポイント理解する。 	『今昔物語』 (1) 『徒然草』 (1)	

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース		教科担任						
国語	国語研究A	2	2年次(選択)		若林 一						
使用教科書			使用副教材	自主教材(学校設定科目のため)							
科目の目標 各年代の様々な作品に触れることにより、文章を的確に理解したり、自己の考えを表現したりする基礎的な能力を高める。					道德教育のねらい 人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道德的心情や道德的判断力を養う。						
市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
学習活動内容		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	現代文 随筆	○		○			○				
2	現代文 評論	○	◎	○							
3	現代文 小説	○	○	○		◎	◎				
4	古文 説話	○		○							
5	古文 物語	○		○							
6	漢文 小話	○		○						○	
7	漢文 史伝	○		○							
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力		書く能力		読む能力		知識・理解			
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。						
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		活動の観察① (授業に対する取り組みの姿勢全般)	活動の観察② (グループ学習時の発表内容や人の意見を聞く態度)	記述の確認及び分析(ノート、ワークシート、原稿用紙等)	定期考査に対する取り組み姿勢と結果						
	関心・意欲・態度	◎	○		○						
	話す・聞く能力		◎								
	書く能力			◎							
読む能力				◎							
知識・理解					◎						

国語研究A 授業計画

授 業 計 画				実 施 状 況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 期	4月 5月 (12)	現代文随筆(4)	ものを学ぶことの意味を、自分自身で考えてみる契機とする。自己の体験や価値観を他の人と分かち合うために随筆を書いて発表し合う。	「小説、この無能なものたち」 読解、要約(2) 随筆執筆(1) 発表(1)	
		現代文評論(8)	自分の生きている社会が、どのような課題に直面しているのかを知る。	「二十一世紀の課題」 読解(4) 課題に対する意見文の執筆(2) 発表(2)	
	6月 (8)	中間考査(1) 古文説話(7)	古文に対する興味、関心を広げ、現代との関わりについても考える。	「北叟が馬」の読解(2) 「正直の徳」の読解(3) 「鬼の笛」の読解(2)	
	7月 8月 (6)	漢文故事(6)	故事成語のもとになった文章を正しく訓読し、叙述に即して的確に読み取る。	主な故事成語の紹介(1) 「蛇足」の読解(3) 「朝三暮四」の読解(2)	
	9月 (8)	期末考査(1) 現代文小説(4)	自己を獲得していく営みが、小説を読むことで経験できることを知る。	「サトウキビの森」の読解(4)	
		古文物語(3)	人物、情景、心情などの表現に即して読みながら、歌物語についての知識を得る。	「筒井筒」の読解(3)	
後 期	10月 (8)	漢文史伝(8)	『十八史略』の文章について、そこに描かれたできごとや人物の特徴を文章の構成や展開に即して読み取る。	「死諸葛走生仲達」の読解(3) 「先従隗始」の読解(2) 「臥薪嘗胆」の読解(3)	
	11月 (8)	現代文小説(7)	人のつながりや言葉に拠らないコミュニケーションについて考えを深める。	「鯨」の読解(4) 「ひよこトラック」の読解(3)	
	12月 (6)	中間考査(1) 現代文評論(6)	主題を的確に読み取り、近代社会の成立と近代以降の考え方について理解し、考えを深	近代アートの誕生(3) 身体像の近代化(3)	
	1月 (4)	漢文漢詩(4)	優れた表現に親しみ、豊かな心情や感性を養う。	漢詩の規則(1) 「江雪」、「送元二使安西」、 「江南春」、「春望」(2) 漢詩パズル(1)	
	2月 3月 (10)	期末考査(1) 現代文表現(9)	表現の特徴や効果を理解した上で、自分の思いや考えをまとめ、適切かつ効果的に表現して他者と伝え合う。	1分間スピーチ(2) プレゼンテーション(2) 問題解決のための討論(2) 書評執筆(2) 広告の仕掛けの読み取り(1)	

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース			教科担任					
国語	作品講読	4	2年次			白石幸恵					
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> 堀辰雄『風立ちぬ/菜穂子』(小学館文庫) 夏目漱石『文鳥・夢十夜』(新潮文庫) 宮澤賢治『銀河鉄道の夜』(新潮文庫)他 										
科目の目標						道徳教育のねらい					
国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。近現代の名作をテキストに精読していくことで、文芸作品を読む楽しさを味わう。						人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。					
市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)											
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	現代文 小説	○	○	○		◎	◎				
2	現代文 詩歌	○		○			○		○		○
3	現代文 表現	○	○	○	◎	○	○		◎		○
4	現代文 文学史	○		○				○			
5	現代文 語彙	○		○				○			
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力		書く能力		読む能力		知識・理解			
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。		相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。		文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。		伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		活動の観察① (授業に対する取り組みの姿勢全般)	活動の観察② (グループ学習時の発表内容や人の意見を聞く態度)	記述の確認及び分析 (ノート、ワークシート、原稿用紙等)	定期考査に対する取り組み姿勢と結果	小テストや課題確認テストに対する取り組み姿勢と結果	週末課題や長期休業中の課題に対する取り組み姿勢と結果				
	関心・意欲・態度	◎	○		○	○	○				
	話す・聞く能力		◎								
	書く能力			◎							
読む能力				◎							
知識・理解					◎	◎	◎	◎			

作品講読 授業計画

					実施状況			
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省			
前	4	○近代文学講読Ⅰ（３９） 堀辰雄「風立ちぬ」	戦時下の不安定な時代に生きた文学者の一人堀辰雄の代表作を読み、作者が目指した作品世界を紐解く。また、文芸評論の基礎を学ぶ。	・文学史（１） ・テキストの精読（３２） ・先行研究を読む（２） ・文芸評論を書く（３） ・合評会（１）				
	5							
	6					前期中間考査(1)	前期中間考査(1)	
期	7	○近代文学講読Ⅱ（２５） 夏目漱石「夢十夜」	文豪夏目漱石の小説の中では異色の幻想文学作品を読み、この作品を通して漱石が描きたかった世界観を読み取る。	・文学史（１） ・テキストの精読（１８） ・先行研究を読む（２） ・文芸評論を書く（３） ・合評会（１）				
	8							
	9					前期期末考査(1)	前期期末考査(1)	
後	10	○近代文学講読Ⅲ（４０） 宮澤賢治「銀河鉄道の夜」	童話というジャンルの作品に触れ、使われている言葉の違いや時代背景など、精読することで深い解釈が可能となる面白さを体感する。	・文学史（１） ・テキストの精読（３０） ・先行研究を読む（３） ・物語を書く（５） ・合評会（１）				
	11					後期中間考査(1)	後期中間考査(1)	
	12					○近代文学講読Ⅳ（２５） 韻文学の名作を読む	普段あまり馴染みのない韻文作品に触れ、詩とは何かを考える。短詩型は、実作することで鑑賞眼を育てる。	・韻文の修辞法（１） ・文学史（１） ・テキストの精読（１５） ・詩・短歌・俳句を書く（５） ・合評会（３）
期	1	後期期末考査(1)	後期期末考査(1)					
	2							
	3	○函館文学序説（７）	地元函館出身の作家の作品に触れ、函館がどのような影響を与えたかを検証する。	・函館文学史（２） ・テキストの読解（４） ・合評会（１）				

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任							
地歴・公民	日本史B文系	4	2年次	小林琢 ・ 榊原伸哉							
使用教科書	山川出版社 詳説日本史B 改訂版		使用副教材	第一学習社 最新日本史図表 初訂版 山川出版社 流れがわかる日本史Bノート 山川出版社 詳説日本史10分間テスト 改訂版 山川出版社 日本史用語集							
科目の目標				道徳教育のねらい							
我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確な理解に導くようにするとともに、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成する。							
市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)											
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・ 自己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
第Ⅰ部 原始・古代											
1	第1章 日本文化のあけぼの	○	○	○							
2	第2章 律令国家の形成	○	○	○							
3	第3章 貴族政治と国風文化	○		○							
第Ⅱ部 中世											
4	第4章 中世社会の成立	○	○	○							
5	第5章 武家社会の成長	○	○	○							
第Ⅲ部 近世											
6	第6章 幕藩体制の確立	○		○							
7	第7章 幕藩体制の展開	○		○							
8	第8章 幕藩体制の動揺	○	○	○							
9	グループワーク			○	○	○	◎		○	○	○
10	課題提出	○	○	◎		○		○		◎	○
11	審査	○	○					○	◎		
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断		技能・表現			知識・理解				
	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。		我が国の歴史の展開に関する諸資料の中から有用な情報を選択し、活用するとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。			我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている				
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	課題への取組	定期考査	提出物	その他の資料	その他				
	関心・意欲・態度	○	◎		◎	○					
	思考・判断	◎	○	○		○	○	○			
	技能・表現	○			○	○	○				
知識・理解	○		○	◎	○	○					

日本史B 授業計画

		授 業 計 画			実 施 状 況		
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省		
前 期	4	第1章 日本文化のあけぼの (11)	<ul style="list-style-type: none"> ・人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化時代の社会を理解する ・大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて弥生文化の形成を考察する。 ・地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の内容からとらえる。 	1 文化の始まり (3) 2 農耕社会の成立 (3) 3 古墳とヤマト政権 (5)			
	5	第2章 律令国家の形成 (23)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ・律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察する。 	1 飛鳥の朝廷 (4) 2 律令国家への道 (7)			
	6		<ul style="list-style-type: none"> ・律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ・天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 	3 平城京の時代 (6) 4 天平文化 (2)			
	7		<ul style="list-style-type: none"> ・平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 	5 平安王朝の形成 (4)			
	8	第3章 貴族政治と国風文化 (12)	<ul style="list-style-type: none"> ・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察させる。 	1 摂関政治 (3)			
	9		<ul style="list-style-type: none"> ・大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として国風文化が展開されたことを理解する。 ・律令制に基づく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 	2 国風文化 (4) 3 地方政治の展開と武士 (5)			
		第4章 中世社会の成立 (17)		1 院政と平氏の台頭 (3)			
	後 期	10	第5章 武家社会の成長 (18)	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ・承久の乱に伴う公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を考察する。 ・蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退に繋がっていく事を理解する。 ・庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 	2 鎌倉幕府の成立 (4) 3 武士の社会 (4) 4 蒙古襲来と幕府の衰退 (3) 5 鎌倉文化 (3)		
				<ul style="list-style-type: none"> ・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ・庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ・武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化のかかりについて理解する。 	1 室町幕府の成立 (5) 2 幕府の衰退と庶民の台頭 (5)		
11		<ul style="list-style-type: none"> ・応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。 		3 室町文化 (5) 4 戦国大名の登場 (3)			
		<ul style="list-style-type: none"> ・大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ・新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 		1 織豊政権 (3) 2 桃山文化 (3)			
12		第6章 幕藩体制の確立 (20)	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を考察する。 ・幕藩体制の確立期の経済・社会を兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 	3 幕藩体制の成立 (6) 4 幕藩社会の構造 (8)			
1			<ul style="list-style-type: none"> ・17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ・幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 	1 幕政の安定 (4) 2 経済の発展 (8)			
2			<ul style="list-style-type: none"> ・経済の発展と関連して町人文化が形成された事について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 	3 元禄文化 (5)			
3		第8章 幕藩体制の動揺 (22)	<ul style="list-style-type: none"> ・農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。 ・江戸中期に確立した洋学や国学、新たな形で展開する文学・芸能・美術について、社会の変容に伴う幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 	1 幕政の改革 (6) 2 宝暦・天明期の文化 (4)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を考察する。 ・化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 		3 幕府の衰退と近代への道 (6) 4 化政文化 (6)				

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
地理歴史	地理B	4	2年次・文系				横浜 隆雄				
使用教科書	新詳地理B (帝国書院)		使用副教材	詳解現代地図 (二宮書店) フォトグラフィア地理図説 (とうほう)							
科目の目標							道徳教育のねらい				
現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。							地域・社会・世界に対する認識を深め、社会の一員としての必要な自覚を養う。				
市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)											
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自 己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能											
1	1章 地理情報と地図	○	○	○							
2	2章 地図の活用と地域調査	○	○	○					○		○
第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察											
3	1章 自然環境	○	○	○					○		○
4	2章 資源と産業	○	○	○					○		○
5	3章 人口、村落・都市	○	○	○					○		○
6	4章 生活文化、民族・宗教	○	○	○					○		○
第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察											
7	1章 現代世界の地域区分	○									
8	2章 現代世界の諸地域	○									○
9	3章 現代世界と日本		○	○							
6	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
7	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
8	考査	○	○					○	◎		
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断			技能・表現			知識・理解			
	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。			地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。			現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。			
評価の方法	小テストや課題、ノートや授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢から、意欲的に取り組んだかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、系統地理的、地誌的に考察し、判断した過程や結果を表現できるかどうかを評価する。			定期考査や小テスト、課題などにより、地図や統計、画像などの資料を活用して情報を得て、まとめることができるかどうかを評価する。			定期考査や小テスト、課題などにより、基本的な事柄を理解し、知識を身に付けているかどうかを評価する。			

第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分(0.7) 2章 現代世界の諸地域(25.3) 後期期末考査(1)	る。 ・多様な観点から、地域区分や地誌の考察ができることを理解する。 ・中国や朝鮮半島について、自然や産業、隣国との交流などの観点から考察する。 ・東南、南アジアについて、自然や産業、宗教などの多様な事象を項目ごとに整理して考察する。	4節 民族・領土問題(4) 1節 地域区分とは何か(0.7) 1節 地域の考察方法(0.3) 2節 東アジア(8) 3節 東南アジア(9) 4節 南アジア(8)	
---	--	---	--

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任							
地理歴史	地理B	2	2年次・理系	横浜 隆雄・大山 元司							
使用教科書	新詳地理B (帝国書院)		使用副教材	詳解現代地図 (二宮書店) フォトグラフィア地理図説 (とうほう)							
科目の目標				道徳教育のねらい							
現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				地域・社会・世界に対する認識を深め、社会の一員としての必要な自覚を養う。							
学習活動内容		市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自 己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力	
第Ⅰ部	さまざまな地図と地理的技能										
1	1章 地理情報と地図										
2	2章 地図の活用と地域調査										
第Ⅱ部	現代世界の系統地理的考察										
3	1章 自然環境										
4	2章 資源と産業										
5	グループワーク										
6	課題提出										
7	審査										
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断			技能・表現			知識・理解			
	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。			地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取りたり図表などにまとめたりしている。			現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。			
評価の方法	小テストや課題、ノートや授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢から、意欲的に取り組んだかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、系統地理的、地誌的に考察し、判断した過程や結果を表現できるかどうかを評価する。			定期考査や小テスト、課題などにより、地図や統計、画像などの資料を活用して情報を得て、まとめることができるかどうかを評価する。			定期考査や小テスト、課題などにより、基本的な事柄を理解し、知識を身に付けているかどうかを評価する。			

地理理系前半 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4月	第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図(3)	・地図の種類について理解し、地図の特性や時差の求め方を通して地理的技能を身に付ける。	1節 地図の発達(0.5) 2節 地図の種類とその利用(1.5) 3節 地理情報の地図化(1)		
	5月	2章 地図の活用と地域調査(3)	・地形図などを活用して、地域を多面的・多角的に調査し、地域的特色をとらえる地理的技能を身に付ける。	1節 地図の活用(2) 2節 身近な地域の調査(1)		
	6月	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境(28) 前期中間考査(1)	・地形や気候の特徴や分布などを理解し、人間生活との関わりについて考察する。	1節 世界の地形(10) 2節 世界の気候(11) 3節 日本の自然の特徴と人々の生活(2.5)		
	7月			4節 環境問題(4.5)		
	8月		・世界の環境問題について大観し、特徴と対策について考察する。			
	9月	前期期末考査(1)				
後 期	10月	2章 資源と産業(32)	・農業地域区分について理解し、現代世界及び日本の農林水産業と食料問題の現状と課題を考察する。	1節 世界の農林水産業(10) 2節 食糧問題(2)		
	11月					
	12月	後期中間考査(1)	・エネルギー・鉱産資源の利用と分布などを理解し、資源・エネルギー問題について考察する。 ・工業の発達や立地・工業地域について理解し、世界及び日本の工業の課題を考察する。	3節 世界のエネルギー・鉱産資源(3.5) 4節 資源・エネルギー問題(3.5) 5節 世界の工業(9)		
	1月					
	2月	後期期末考査(1)				
	3月		・第3次産業や交通・通信の発達による世界の一体化について理解し、現代世界の貿易と経済圏の現状や課題を考察する。	6節 第3次産業(1) 7節 世界を結ぶ交通・通信(1) 8節 現代世界の貿易と経済圏(2)		

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
数学	数学ⅡB	6	2年次・文系				谷藤・加藤真・澤邊・寺尾				
使用教科書	東京書籍 「数学Ⅱ Advanced」 東京書籍 「数学B Advanced」		使用副教材		東京書籍「Standard Buddy WIDE 数学Ⅱ+B 演習ノート」 数研出版「チャート式改訂版基礎からの数学Ⅱ+B」						
科目の目標							道徳教育のねらい				
<p>「方程式・式と証明」、「図形と方程式」、「三角関数」、「ベクトル」、「指数関数と対数関数」、「微分法と積分法」、「数列」について理解させ基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。2クラス3展開の習熟度別少人数編成の授業により、きめ細かな指導を行う。課題、単元テスト等の取り組みを徹底し、基礎基本の定着を図ると共に、応用問題に果敢に取り組む姿勢を養う。また、速い進捗で進み、早期に数学ⅡB演習に取り組む。</p>							<p>数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度や、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てることで、また、生徒が事象を数理的に考察し、道筋を立てて考え、表現をする能力を高めることで、道徳的判断力を養う。</p>				
市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）											
学習活動内容											
		1 基礎力	2 思考力	3 主体的 学習力	4 傾聴力	5 自己理解・ 自己管理 力	6 他者 理解力	7 計画 実行力	8 発信・ 表現力	9 ストレス コントロール	10 実践力
1	数学Ⅱ 1章 方程式・式と証明(2次方程式)	○	○	○	○			○		○	
2	数学Ⅱ 1章 方程式・式と証明(高次方程式)	○	○	○	○			○		○	
3	数学Ⅱ 1章 方程式・式と証明(式と証明)	○	○	○	○			○		○	
4	数学Ⅱ 2章 図形と方程式(点と直線)	○	○	○	○			○		○	
5	数学Ⅱ 2章 図形と方程式(円)	○	○	○	○			○		○	
6	数学Ⅱ 2章 図形と方程式(軌跡と領域)	○	○	○	○			○		○	
7	数学B 2章 ベクトル(平面上のベクトル)	○	○	○	○			○		○	
8	数学B 2章 ベクトル(ベクトルの応用)	○	○	○	○			○		○	
9	数学B 2章 ベクトル(空間におけるベクトル)	○	○	○	○			○		○	
10	数学Ⅱ 3章 三角関数(三角関数)	○	○	○	○			○		○	
11	数学Ⅱ 3章 三角関数(加法定理)	○	○	○	○			○		○	
12	数学Ⅱ 4章 指数関数・対数関数(指数関数)	○	○	○	○			○		○	
13	数学Ⅱ 4章 指数関数・対数関数(対数関数)	○	○	○	○			○		○	
14	数学Ⅱ 5章 微分と積分(微分係数と導関数)	○	○	○	○			○		○	
15	数学Ⅱ 5章 微分と積分(導関数の応用)	○	○	○	○			○		○	
16	数学Ⅱ 5章 微分と積分(積分)	○	○	○	○			○		○	
17	数学B 1章 数列(数列)	○	○	○	○			○		○	
18	数学B 1章 数列(漸化式と数学的帰納法)	○	○	○	○			○		○	
19	数学ⅡBの応用演習①	○	○	○	○			○		○	
20	数学ⅡBの応用演習②	○	○	○	○			○		○	
21	グループワーク		○	○	○	○	◎	◎	○	○	
22	課題提出	○	○	◎		○		○	◎	○	
23	考査と単元テスト	○	○					○	◎	○	
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方			数学的な技能			知識・理解			
	<p>数学的活動を通して、各単元における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。</p>		<p>数学的活動を通して、各単元における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。</p>			<p>数学的活動を通して、各単元において、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。</p>			<p>数学的活動を通して、各単元における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。</p>		
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料				
	関心・意欲・態度	○	◎				○			○	
	数学的な見方や考え方	◎	○	○	○	○	○			○	
	数学的な技能	○	○	○	○	○	○			◎	
知識・理解	○	○	◎	◎	◎	◎			○		

学習指導計画					実施状況	
月 (時 数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単 元 実 施	実 施 反 省	
前 期	4(18)	数学Ⅱ 第1章 方程式・式と証明 (18) 5月初旬に単元テスト	数学Ⅱ 第1章のねらい 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	第2節 2次方程式 (6) 第3節 高次方程式 (6) 第4節 式と証明 (6)	4月	前 期
	5(24)	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 (29)	数学Ⅱ 第3章のねらい 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第1節 点と直線 (11) 第2節 円 (11) 第3節 軌跡と領域 (6)	5月	
	6(23)	6月上旬に前期中間考査		前期中間考査 (1)	6月	
	7(10)	数学B 第2章 ベクトル (28) 夏休み前に単元テスト	数学B 第1章のねらい ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第1節 平面上のベクトル (15) 第2節 ベクトルの応用 (12) 単元テスト (1)	7月	
	8(11)	数学B 第2章 ベクトル (11) 8月夏休み明け 課題確認試験	数学B 第2章のねらい ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第3節 空間におけるベクトル(7) (柳星祭⇒進研模試7月) 第3節 空間におけるベクトル(4)	8月	
	9(20)	数学Ⅱ 第4章 三角関数 (20) 9月初旬前期期末考査	数学Ⅱ 第4章のねらい 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 三角関数 (11) 前期期末考査(2) 第2節 加法定理 (7)	9月	
後 期	10(18)	数学Ⅱ 第4章 指数関数・対数関数 (15) 10月中旬単元テスト	数学Ⅱ 第4章のねらい 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 指数関数(6) 第2節 対数関数(8) 単元テスト (1) (見学旅行)	10月	後 期
	11(24)	数学Ⅱ 第5章 微分法と積分法 (27) 11月中旬単元テスト	数学Ⅱ 第5章のねらい 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第1節 微分係数と導関数(6) (進研模試11月) 第2節 導関数の応用 (8) 第3節 積分 (12) 単元テスト (1)	11月	
	12(17)	数学B 第1章 数列 (30) 12月上旬後期中間考査	数学B 第1章のねらい 簡単な数列とその和及び漸化式について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 数列 (15) 後期中間考査 (2)	12月	
	1(13)	1月冬休み明け 課題確認試験		第2節 漸化式と数学的帰納法(13) (進研模試1月)	1月	
	2(17)	数学ⅡBの応用演習① (17) 2月下旬後期期末考査	数学ⅡBの内容全体について、センター試験・2次試験に対応できる実力養成のため、応用問題演習に取り組む。	節の分割なし(15) (大学入学共通テスト対応模試2月) 後期期末考査 (2)	2月	
3(15)	数学ⅡBの応用演習② (15)	数学ⅡBの内容全体について、センター試験・2次試験に対応できる実力養成のため、応用問題演習に取り組む。	節の分割なし(14) 単元テスト (1)	3月		

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任							
数学	数学ⅡB	6	2年次・理系β	加藤経・加藤真・澤邊・寺尾							
使用教科書	東京書籍「数学Ⅱ Advanced」 東京書籍「数学B Advanced」		使用副教材	東京書籍「Standard Buddy WIDE 数学Ⅱ+B 演習ノート」 数研出版「チャート式改訂版基礎からの数学Ⅱ+B」							
科目の目標				道徳教育のねらい							
<p>「方程式・式と証明」、「図形と方程式」、「三角関数」、「ベクトル」、「指数関数と対数関数」、「微分法と積分法」、「数列」について理解させ基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。2クラス3展開の習熟度別少人数編成の授業により、きめ細かな指導を行う。課題、単元テスト等の取り組みを徹底し、基礎基本の定着を図ると共に、応用問題に果敢に取り組む姿勢を養う。また、速い進捗で進み、早期に数学Ⅲに取り組む。</p>				<p>数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度や、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てることで、また、生徒が事象を数理的に考察し、道筋を立てて考え、表現をする能力を高めることで、道徳的判断力を養う。</p>							
学習活動内容		市商DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解 ・自己管理 力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロールカ	実践力
1	数学Ⅱ 1章 方程式・式と証明(2次方程式)	○	○	○	○				○		○
2	数学Ⅱ 1章 方程式・式と証明(高次方程式)	○	○	○	○				○		○
3	数学Ⅱ 1章 方程式・式と証明(式と証明)	○	○	○	○				○		○
4	数学Ⅱ 2章 図形と方程式(点と直線)	○	○	○	○				○		○
5	数学Ⅱ 2章 図形と方程式(円)	○	○	○	○				○		○
6	数学Ⅱ 2章 図形と方程式(軌跡と領域)	○	○	○	○				○		○
7	数学B 2章 ベクトル(平面上のベクトル)	○	○	○	○				○		○
8	数学B 2章 ベクトル(ベクトルの応用)	○	○	○	○				○		○
9	数学B 2章 ベクトル(空間におけるベクトル)	○	○	○	○				○		○
10	数学Ⅱ 3章 三角関数(三角関数)	○	○	○	○				○		○
11	数学Ⅱ 3章 三角関数(加法定理)	○	○	○	○				○		○
12	数学Ⅱ 4章 指数関数・対数関数(指数関数)	○	○	○	○				○		○
13	数学Ⅱ 4章 指数関数・対数関数(対数関数)	○	○	○	○				○		○
14	数学Ⅱ 5章 微分と積分(微分係数と導関数)	○	○	○	○				○		○
15	数学Ⅱ 5章 微分と積分(導関数の応用)	○	○	○	○				○		○
16	数学Ⅱ 5章 微分と積分(積分)	○	○	○	○				○		○
17	数学B 1章 数列(数列)	○	○	○	○				○		○
18	数学B 1章 数列(漸化式と数学的帰納法)	○	○	○	○				○		○
19	関数に関する発展的学習	○	○	○	○				○		○
20	数列と関数に関する発展的学習	○	○	○	○				○		○
21	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
22	課題提出		○	○	◎			○		◎	○
23	考査と単元テスト	○	○					○	◎		○
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方			数学的な技能			知識・理解			
	数学的活動を通して、各単元における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して、各単元における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。			数学的活動を通して、各単元において、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。			数学的活動を通して、各単元における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料				
	関心・意欲・態度	○	◎				○				
	数学的な見方や考え方	◎	○	○	○	○	○				
	数学的な技能	○	○	○	○	○	◎				
知識・理解	○	○	◎	◎	◎	○					

学習指導計画					実施状況	
月 (時 数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単 元 実 施	実 施 反 省	
前 期	4(18)	数学Ⅱ 第1章 方程式・式と証明 (18) 5月初旬に単元テスト	数学Ⅱ 第1章のねらい 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	第2節 2次方程式 (6) 第3節 高次方程式 (6) 第4節 式と証明 (6)	4月	前 期
	5(24)	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 (29)	数学Ⅱ 第3章のねらい 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第1節 点と直線 (11) 第2節 円 (11) 第3節 軌跡と領域 (6)	5月	
	6(23)	6月上旬に前期中間考査		前期中間考査 (1)	6月	
	7(10)	数学B 第2章 ベクトル (28) 夏休み前に単元テスト	数学B 第1章のねらい ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第1節 平面上のベクトル (15) 第2節 ベクトルの応用 (12) 単元テスト (1)	7月	
	8(11)	数学B 第2章 ベクトル (11) 8月夏休み明け 課題確認試験	数学B 第2章のねらい ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第3節 空間におけるベクトル(7) (柳星祭⇒進研模試7月) 第3節 空間におけるベクトル(4)	8月	
	9(20)	数学Ⅱ 第4章 三角関数 (20) 9月初旬前期期末考査	数学Ⅱ 第4章のねらい 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 三角関数 (11) 前期期末考査(2) 第2節 加法定理 (7)	9月	
後 期	10(18)	数学Ⅱ 第4章 指数関数・対数関数 (15) 10月中旬単元テスト	数学Ⅱ 第4章のねらい 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 指数関数(6) 第2節 対数関数(8) 単元テスト (1) (見学旅行)	10月	後 期
	11(24)	数学Ⅱ 第5章 微分法と積分法 (27) 11月中旬単元テスト	数学Ⅱ 第5章のねらい 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第1節 微分係数と導関数(6) (進研模試11月) 第2節 導関数の応用 (8) 第3節 積分 (12) 単元テスト (1)	11月	
	12(17)	数学B 第1章 数列 (30) 12月上旬後期中間考査	数学B 第1章のねらい 簡単な数列とその和及び漸化式について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 数列 (15) 後期中間考査 (2)	12月	
	1(13)	1月冬休み明け 課題確認試験		第2節 漸化式と数学的帰納法(13) (進研模試1月)	1月	
	2(17)	関数に関する発展的学習 関数 (17) 2月下旬後期期末考査	微分法、積分法の基礎として応用的な関数の概念を理解し、それを関数値の極限の考察に活用できるようにする。	関数(15) (大学入学共通テスト対応模試2月) 後期期末考査 (2)	2月	
3(15)	数列と関数に関する発展的学習 極限 (15)	微分法、積分法の基礎として極限の概念を理解し、それを数列と関数の極限の考察に活用できるようにする。	極限 (14) 単元テスト (1)	3月		

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
理科	物理 (前半)	3	2年次				藤 島 譲				
使用教科書	東京書籍「物理」			使用副教材	数研出版「リードLightノート物理」						
科目の目標							道徳教育のねらい				
「物理基礎」の学習を踏まえて、物理的な事象・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。							科学的に探求する能力と態度と自然観を学び、それらを日常的に積極的に活用する態度を育てる。				
学習活動内容		市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	力のつり合いと合成・分解	○			○	○			○		○
2	力のモーメント		○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	平面上の運動	○			○	○				○	○
4	放物運動		○	○	○	○				○	○
5	円運動		○	○	○	○				○	○
6	慣性力		○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	万有引力		○	○	○	○				○	○
8	単振動	○			○	○	○	○	○	○	○
9	運動量保存の法則	○			○	○				○	○
10	反発係数		○	○	○	○				○	○
11	運動量と力積		○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	気体の性質		○	○	○	○				○	○
13	気体分子の熱運動		○	○	○	○				○	○
14	気体の状態変化		○	○	○	○				○	○
15	熱機関と熱力学第2法則		○	○	○	○				○	○
16	波の表し方	○			○	○				○	○
17	波の伝わり方	○			○	○				○	○
18	音の性質	○			○	○				○	○
19	ドップラー効果		○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	光の伝わり方		○	○	○	○				○	○
21	光の回折と干渉		○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	レンズと鏡		○	○	○	○				○	○
23	静電気	○			○	○				○	○
24	電界 (電場)		○	○	○	○				○	○
25	電位		○	○	○	○				○	○
26	電界の中の物体		○	○	○	○		○	○	○	○
27	コンデンサー		○	○	○	○	○	○	○	○	○
28	電流		○	○	○	○				○	○
29	直流回路		○	○	○	○				○	○
30	磁界 (磁場)		○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	電流のつくる磁界		○	○	○	○				○	○
32	電流が磁界から受ける力		○	○	○	○	○	○	○	○	○
33	ローレンツ力		○	○	○	○	○	○	○	○	○
34	電磁誘導の法則		○	○	○	○				○	○
35	自己誘導と相互誘導		○	○	○	○				○	○
36	交流		○	○	○	○				○	○
37	電磁波		○	○	○	○				○	○
38	グループワーク	○	○	○	○	○	◎		◎	○	○
39	考査	○	○					○	◎		
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断			技能・表現			知識・理解			
	物理現象に対して、興味・関心を高め、知的好奇心をもって問題を見だし、主体的に解決する態度を養う。	自らが見つけた課題に対し、目的意識をもち、見直しをもって観察・実験などに取り組む態度を養う。			探究活動を通して、仮説・観察・実験、結果、考察、法則性の導出、発表から物理学的に探究する技能・表現を養う。			観察・実験などを通して得られた結果から、物理的な事象・現象の基本概念や原理・法則などの習った知識・理解を深める。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	小テスト	その他の資料				
	関心・意欲・態度	○	◎			○					
	思考・判断	◎		○	○		○				
技能・表現	○		○	○			◎				
知識・理解	○	○		◎	◎	○					

物理（前半） 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況		
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省		
前 期	4月 2 6 8	30 力と運動	運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方にに基づき、物体の運動を探究し、力と運動に関する概念や原理・法則などを系統的に理解する。	力のつり合いと合成・分解	2		
				力のモーメント	4		
				平面上の運動	2		
	5月 10			放物運動	2		
	14			円運動	4		
	15			慣性力	1		
	19			万有引力	4		
	23			単振動	4		
	6月 25			運動量保存の法則	2		
	27			反発係数	2		
30	運動量と力積	3					
後 期	7月 32	10 熱	水面波、音、光などの波動現象を探究し、共通する基本的な概念や法則を系統的に理解する。	気体の性質	2		
	34			気体分子の熱運動	2		
	8月 38			気体の状態変化	4		
	40			熱機関と熱力学第2法則	2		
	9月 42			22 波	波の表し方		2
	46				波の伝わり方		4
48	音の性質	2					
10月 51	ドップラー効果	3					
55	光の伝わり方	4					
59	光の回折と干渉	4					
62	レンズと鏡	3					
後 期	11月 64	43 電気と磁気	電気や磁気に関する現象を探究し、電気と磁気に関する基本的な概念や法則を系統的に理解する。	静電気	2		
	67			電界（電場）	3		
	70			電位	3		
	72			電界の中の物体	2		
	12月 76			コンデンサー	4		
	78			電流	2		
	1月 83			直流回路	5		
	85			磁界（磁場）	2		
	2月 87			電流のつくる磁界	2		
	89			電流が磁界から受ける力	2		
91	ローレンツ力	2					
95	後期期末考査	電磁誘導の法則	4				
後 期	3月 97			自己誘導と相互誘導	2		
	102			交流	5		
	105			電磁波	3		

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任								
理科	化学基礎	2	2年次・文系	下村 薫、栃木 一晃、小松 祥秀								
使用教科書	化学基礎 改訂版 (啓林館)		使用副教材	リードLightノート化学基礎 (数研出版)								
科目の目標			道徳教育のねらい									
物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。			自然の事物・現象を探究する活動を通して、地球の環境や生態系のバランスなどについて考えさせ、自然と人間との関わりについて認識させることで、生命を尊重し、自然科学の保全に寄与する態度の育成につなげる。見通しをもって観察、実験を行うことで、科学的に探究する力を育て、科学的に探究しようとする態度を養い、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度を									
市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)												
学習活動内容			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
			基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自 己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	第一部 第1章 物質の構成	○										
2	第2章 物質の構成粒子	○	○									
3	第3章 化学結合	○	○	○								
4	第二部 第1章 物質と化学反応式	○	○	○								
5	第2章 酸と塩基	○	○									
6	第3章 酸化還元反応	○	○									
7												
8												
9												
10	定期考査	◎	◎						○	○		◎
11	小テスト 単元テスト	◎	○							○		◎
12	課題提出 (問題集)	○	○	◎			○		◎	△		○
13	課題提出 (レポート等)	◎	○	◎			○		◎	◎		○
14	グループ活動 等	△	◎	◎	◎		◎	◎	△	◎	◎	◎
15	実験実習	△	◎	○	◎		○	○	◎	○	○	◎
16												
17												
18												
19												
20												
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現			観察・実験の技能			知識・理解				
	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けて	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。			物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学			物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。				
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。											
		授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料					
	関心・意欲・態度	○	◎									
	思考・判断・表現	◎			○	○						○
	観察・実験の技能	◎	◎		○	○						◎
知識・理解	○	○		◎	◎				○		○	

化学基礎 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4月 (4)	第一部 物質の構成 第1章 物質の構成 (9)	生活の中に化学についての再発見をし、化学の役割について理解を深める。物質の種類と性質について学び、化学を学ぶことに意欲を持つ。 物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。	1 純物質と混合物 2		
	5月 (7)		2 物質とその成分 3			
	6月 (8)	第2章 物質の構成粒子 (7)	イオン生成を電子配置と関連づけて理解し、イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理解する。 共有結合を電子配置と関連づけて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間の結合によって物質ができていることを理解する。 金属原子間の結合および金属からなる物質の性質を理解する。	1 原子の構造と電子配置 3 2 イオン 2 3 元素の周期表 2		
	7月 (6)	第3章 化学結合 (16)	1 イオン結合 3 2 共有結合 6 3 金属結合 2 4 物質の分類と融点 1 実験・探求活動2 章のまとめ 4			
	8月 (3) 9月 (11)	第二部 物質の変化 第1章 物質質量と化学反応式 (10)	原子量・分子量・式量などの物質質量の基本事項を学ぶ。 物質質量と溶液の濃度の関係を学ぶ。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。	1 原子量・分子量・式量 2 2 物質質量 (mol) 2 3 化学反応式と化学変化の量的関係 3		
後 期	10月 (6)		実験・探求活動3 章のまとめ 3			
	11月 (5)	第2章 酸と塩基 (11)	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係および、pHについて理解する。 酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。	1 酸と塩基 2 2 水の電離とpH 2 3 酸・塩基の中和と塩 4 実験・探求活動4 3 章のまとめ		
	12月 (5) 1月 (3) 2月 (6) 3月 (5)	第3章 酸化還元反応 (10)	酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 酸化剤と還元剤の反応と実用電池の形成の関係を理解する。 酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。	1 酸化と還元 3 2 酸化剤と還元剤 3 3 金属の酸化還元反応 2 4 酸化還元反応と人間生活 2 実験・探求活動5 3 章のまとめ		
		※ 考査 (4)	※定期考査 年4回 4			

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
理科	化学基礎	2	2年次・理系				斉藤 恭士 ・ 鈴木 史則				
使用教科書	化学基礎 改訂版 (啓林館)			使用副教材	リードLightノート化学基礎 (数研出版)						
科目の目標					道徳教育のねらい						
物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。					自然の事物・現象を探究する活動を通して、地球の環境や生態系のバランスなどについて考えさせ、自然と人間との関わりについて認識させることで、生命を尊重し、自然科学の保全に寄与する態度の育成につなげる。見通しをもって観察、実験を行うことで、科学的に探究する力を育て、科学的に探究しようとする態度を養い、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度を						
市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)											
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	第一部 第1章 物質の構成	○									
2	第2章 物質の構成粒子	○	○								
3	第3章 化学結合	○	○	○							
4	第二部 第1章 物質と化学反応式	○	○	○							
5	第2章 酸と塩基	○	○								
6	第3章 酸化還元反応	○	○								
7											
8											
9											
10	定期考査	◎	◎					○	○		◎
11	小テスト 単元テスト	◎	○						○		◎
12	課題提出 (問題集)	○	○	◎		○		◎	△		○
13	課題提出 (レポート等)	◎	○	◎		○		◎	◎		○
14	グループ活動 等	△	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎
15	実験実習	△	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎
16											
17											
18											
19											
20											
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現			観察・実験の技能			知識・理解			
	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付ける。	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。			物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学			物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料				
	関心・意欲・態度	○	◎								
	思考・判断・表現	◎		○	○						
	観察・実験の技能	◎	◎	○	○						
知識・理解	○	○	◎	◎	○	○					

化学基礎 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4月 第一部 物質の構成 第1章 物質の構成	生活の中に化学についての再発見をし、化学の役割について理解を深める。物質の種類と性質について学び、化学を学ぶことに意欲を持つ。 物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。	1 純物質と混合物 2 2 物質とその成分 3 3 粒子と熱運動と物質の三態 2 実験・探求活動1 2 章のまとめ 1			
	5月 第2章 物質の構成粒子	イオン生成を電子配置と関連づけて理解し、イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理解する。 共有結合を電子配置と関連づけて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間の結合によって物質ができていることを理解する。 金属原子間の結合および金属からなる物質の性質を理解する。	1 原子の構造と電子配置 3 2 イオン 2 3 元素の周期表 2 1 イオン結合 3 2 共有結合 6 3 金属結合 2 4 物質の分類と融点 1 実験・探求活動2 章のまとめ 4			
	第3章 化学結合					
	6月 第二部 物質の変化 第1章 物質質量と化学反応式	原子量・分子量・式量などの物質質量の基本事項を学ぶ。 物質質量と溶液の濃度の関係を学ぶ。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。	1 原子量・分子量・式量 2 2 物質質量 (mol) 2 3 化学反応式と化学変化の量的関係 3 実験・探求活動3 3 章のまとめ 1			
	7月 第2章 酸と塩基	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係および、pHについて理解する。 酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。	1 酸と塩基 2 2 水の電離とpH 2 3 酸・塩基の中和と塩 4 実験・探求活動4 3 章のまとめ 1			
8月 第3章 酸化還元反応	酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 酸化剤と還元剤の反応と実用電池の形成の関係を理解する。 酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。	1 酸化と還元 3 2 酸化剤と還元剤 3 3 金属の酸化還元反応 2 4 酸化還元反応と人間生活 2 実験・探求活動5 3 章のまとめ 1				
9月						

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
理科	化学（前半）	2	2年次				斉藤 恭士 ・ 鈴木 史則				
使用教科書	化学 改訂版（啓林館）			使用副教材	リードLightノート化学（数研出版）						
科目の目標							道徳教育のねらい				
化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。							物質の多様性や、人間生活との関わりについて正しく理解することで、現代社会において生きる力を養うとともに、科学リテラシーを育む。				
市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）											
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	物質の変化と平衡	○	○					○			
2	無機物質	○	○					○			
3	有機化合物	○	○	○				○			○
4	高分子化合物	○	○								○
5	グループワーク			○	○	○	○		○	○	
6	考査	○				○		○			○
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断			技能			知識・理解			
	化学の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	化学の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通理して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。			観察、実験の基本操作を習得し、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			化学の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	その他の資料					
	関心・意欲・態度	○	◎								
	思考・判断	◎		○	○	○					
	技能	○		○	○	◎					
知識・理解	○	○		◎	◎						

化学（前半） 授業計画

授 業 計 画				実 施 状 況		
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
後 期	10	第1部 物質の状態 第1章 固体の構造	化学結合とそれぞれの性質、及び結晶構造を理解する。	粒子の結びつきと結晶 結晶の構造 アモルファス（非晶質）	1 4 3	
	11	第2章 物質の状態変化	状態変化に伴うエネルギーの出入りを学び、物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連付けて理解する。	状態変化 気液平衡と蒸気圧	2 4	
		第3章 気体の性質	気体の体積の変化・気体の体積と圧力や温度との関係を理解する。	気体の体積の変化 気体の状態方程式	2 6	
	12	第4章 溶液の性質	溶解の仕組みを理解する。また、溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。	溶解平衡と溶解度 希薄溶液の性質 コロイド	4 2 4	
		後期中間考査				
		第2部 物質の変化と平衡				
	1	第1章 化学反応と熱・光エネルギー	化学反応における熱の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差であることを理解する。	反応熱と熱化学方程式 ヘスの法則 化学反応と光	2 3 3	
		第2章 化学反応と電気エネルギー	電池は、酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みであることを理解する。	電池 電気分解	3 6	
		第3章 反応速度	反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解する。	反応の速さ 化学反応と触媒	4 5	
	2	第4章 化学平衡	可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解する。	化学平衡とその移動	6	
		後期期末考査				
	3			電離平衡	6	

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任						
理科	生物	3	2年次				栃木 一晃						
使用教科書	生物 (数研出版)			使用副教材	リードLightノート 生物 (数研出版)								
科目の目標				道徳教育のねらい									
<p>生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。</p> <p>(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p>				<p>自然の事物・現象を探究する活動を通して、地球の環境や生態系のバランスなどについて考えさせ、自然と人間との関わりについて認識させることで、生命を尊重し、自然科学の保全に寄与する態度の育成につなげる。見通しをもって観察、実験を行うことで、科学的に探究する力を育て、科学的に探究しようとする態度を養い、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態</p>									
学習活動内容				市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
			基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力	
1	第1章 細胞と分子		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2	第2章 代謝		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3	第3章 遺伝情報の発現		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
4	第4章 生殖と発生		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	第5章 動物の反応と行動		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6													
7	定期考査		◎	◎					○	○		◎	
8	小テスト 単元テスト		◎	○						○		◎	
9	課題提出 (問題集)		○	○	◎		○		◎	△		○	
10	課題提出 (レポート等)		◎	○	◎		○		◎	◎		○	
11	学び合い活動 (グループ活動等)		△	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	
12	実験実習 等		△	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	
20													
評価の観点	関心・意欲・態度	生物や生物現象に関心や探究心を持ち主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見いだし探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	知識・理解	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。					
	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。				授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	レポート	その他			
評価の方法	関心・意欲・態度	◎	◎	○	△	◎	○						
	思考・判断・表現	◎	◎	◎	◎	◎	○						
	観察・実験の技能	◎	○	◎	○	◎	○						
	知識・理解	◎	◎	◎	◎	◎	○						

生物（前半） 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時数)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4 5 (15)	第1章 細胞と分子	まず、細胞を構成する物質について学習する。特に、タンパク質については、基本的な構造を学習したうえで、酵素など、その立体構造と生命活動において果たすはたらきとの関連を理解させる。次に、細胞小器官など、細胞の内部構造とそのはたらきについて学習する。生体膜や細胞骨格については、その構造や機能を学習する。これらの学習を通じて、細胞活動においてさまざまなタンパク質がさまざまな生命現象を支えていることを理解する。	1 生体の構成 個体・細胞・分子 3 2 タンパク質の構造と性質 2 3 酵素のはたらき 2 4 細胞の構造とはたらき 2 5 細胞の活動とタンパク質 2 実験 酵素実験 (内容未定) 1 6 単元のまとめ 3		
	6 7 (20)	第2章 代謝	「生物基礎」で概要を学習した呼吸・光合成について、その詳細なしくみを理解する。呼吸においては、各過程の反応を学習し、その際、有機物が分解され、ATPが合成されることを理解する。光合成においては、各過程の反応を学習し、その際、光エネルギーが化学エネルギーに変換されることを理解する。また、窒素同化の概要についても理解する。	1 代謝とエネルギー 4 2 呼吸と発効 4 3 光合成 4 4 窒素同化 4 実験2 光合成 (内容未定) 1 5 単元のまとめ 3		
	8 9 10 (25)	第3章 遺伝情報の発現	「生物基礎」で学習したDNAの構造・複製・タンパク質合成について、その詳細なしくみを理解する。その際、遺伝情報の変化についても学習する。次に、遺伝子の発現調節の概要を、転写レベルの調節を中心に学習する。さらに、遺伝子を扱ったバイオテクノロジーについて学習し、その原理と有用性を理解する。	1 DNAの構造と複製 4 2 遺伝情報の発現 4 3 遺伝子の発現調節 4 4 バイオテクノロジー 4 探求活動 バイオテクノロジー 2 5 単元のまとめ 7		
11 12 (25)	第4章 生殖と発生	染色体に遺伝子が存在することを学習したうえで、有性生殖では、減数分裂と受精によって多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解する。次に、動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程を学習する。また、細胞の分化や形態形成のしくみについて、誘導現象を中心に理解する。前後軸形成のしくみと形態形成を調節する遺伝子について学習する。植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学習し、器官分化における遺伝子のはたらきについて理解する。	1 遺伝子と染色体 4 2 減数分裂と遺伝情報の分配 4 3 遺伝子の多様な組み合わせ 4 4 動物の配偶子形成と受精 4 5 初期発生の過程 2 6 細胞の分化と形態形成 2 7 植物の発生 2 実験3 植物の発生 2 8 単元のまとめ 1			
1 2 3 (20)	第5章 動物の反応と行	まず、ニューロン（神経細胞）の基本的な構造とそのはたらきを理解する。次に、受容器で受け取られた刺激（情報）が、神経系を介して、効果器へと至る経路を学習する。その際、刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に取り上げ、効果器に関しては筋肉を中心に取り上げる。動物の行動については、神経系における情報の流れと関連づけながら扱う。	1 ニューロンとその興奮 2 2 刺激の受容 2 3 情報の統合 2 4 刺激の反応 4 5 動物の行動 2 実験4 視覚の実験 1 実験5 いろいろな感覚 1 6 単元のまとめ 6			

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
理科	地学基礎	2	2年次				下村 薫				
使用教科書	改訂高等学校地学基礎（第一学習社）			使用副教材	改訂ネオバルノート地学基礎（第一学習社） ニューステージ新地学図表（浜島書店）						
科目の目標						道徳教育のねらい					
日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						日本列島の置かれている状況を理解させ、自他の命を守る判断、態度等を常に意識させる。また地球環境に思いを寄せ、身近な部分から環境を保全しようとする態度を育成する。					
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1 基礎力	2 思考力	3 主体的 学習力	4 傾聴力	5 自己理 解・自己 管理力	6 他者 理解力	7 計画 実行力	8 発信・ 表現力	9 スリ ム・コ ントロ ル力	10 実践力
1	宇宙における地球	○									
2	活動する地球	○		○							
3	移り変わる地球	○									
4	大気と海洋	○		○							
5	地球の環境	○		○			○			○	
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	
19	課題提出		○	◎		○		○		◎	
20	考査	○	○					○	◎		
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現			観察・実験の技能			知識・理解			
	地学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	地学的な事物・現象の中に問題を見出し、事象を、分析的・総合的に考察し、問題を解決するとともに、事実にもとづいて科学的に判断したことを言語活動を通じて表現する。			事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、そこから導き出した自らの考えを的確に表現する。			観察、実験などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料				
	関心・意欲・態度	○	◎			○					
	思考・判断・表現	◎		○	○		○				
	観察・実験の技能	○		○	○			◎			
知識・理解	○	○		◎	◎	○					

平成31年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任			
保健体育	体育	3	2年男子				石郷岡 純一			
使用教科書	現代保健体育（大修館）					使用副教材				
科目の目標							道徳教育のねらい			
健康や体力について合理的に実践し、運動技能を高めるとともに、それらの経験を通して、公正・協力・責任などの態度を育て、強健な心身の発達を促して生涯を通して継続的に運動を実践できる能力と態度を育てる。							集団行動や授業準備、実技において、協力や思いやり、安全指導などを通じて道徳心を育てる。			
学習活動内容	市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解 自己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信 表現力	ストレス コントロール	実践力
1	◎				◎					
2		◎		◎						
3	○									○
4			◎			◎	○	○		○
5	○		○				○			◎
6		○	○		○	◎		○		
7		○			○	◎		○	○	
8	○	○					○			◎
9			○							
10										
11										
12										
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現		知識・理解		
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。		生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。			運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防の展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。		選択した運動の技能（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。		
評価の方法	授業の準備・後片付けなどへの協力姿勢、意欲的な取組・グループでの協力姿勢を評価		授業における練習の取組方、ワークシートでの評価			各種目における実技テスト、記録・発表会を評価		ペーパーテスト、または口頭試問による評価		

2年男子体育 授業計画

授 業 計 画					実施状況	
月 (時数)	単元・考査等 (配置時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前期	4・5月	体づくり運動・スポーツテスト (・授業オリエンテーション、集団行動・集団づくり、補強運動、スポーツテストを実施し自らの体力への理解を深め今後の授業にいかす。	・オリエンテーション (1) ・体づくり運動・スポーツテスト (9)・・・「体ほぐし運動」と「体力を高める運動」を通じて、心と体の状態を把握し仲間とともに運動に親しむための基礎を養う。		
	5月 6月 7月	体育理論 (3)	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・スポーツの技術と戦術 ・技能の上達過程と練習 ・効果的な動きのメカニズム (各1h)		
	5月 6月	バレーボール (&ソフトボール)	・基本技術の練習 (パス・サーブ・スパイク) と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では互いに協力する姿勢を養う。	・基本技術習得のための練習 (3) ・グループ技能を高める練習 (5) ・ゲーム形式 (7)		
	7・8月	選択種目Ⅰ (8)	・球技大会で実施する・「バレー」、「ソフト」「サッカー」から種目を選択し、技術向上、または仲間との連携を高め、工夫した取り組みを実践する。	・球技大会種目の練習 (8)		
	8月 9月	サッカー (15)	・基本技術の習得 (ドリブル、パス、シュートなど) のための練習を行い、ゲーム形式を実施する。技能向上を目指す姿勢と仲間との協力する姿勢を養う。	・基本技術習得のための練習 (4) ・グループ技能を高める練習 (4) ・ゲーム形式 (7)		
	体力診断テストの振り返り&課題改善の取り組み (3時間程度)					
後期	10月 11月	選択種目Ⅱ男女混合 (15)	・「バドミントン」、「卓球」「ソフトバレー」から1種目を選択し実施する。選択した種目のより高い技術や戦術を身につけ競技への理解を深める。	・基本技術習得のための練習 (3) ・グループ技能を高める練習 (3) ・ゲーム形式 (9)		
	10月 11月 12月	体育理論 (3)	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・技能と体力 ・体力トレーニング ・運動やスポーツでの安全確保 (各1h)		
	10～1 2 月	柔道Ⅱ (12)	・柔道を実施する。礼法・受け身・寝技・立ち技の習得をめざし、練習を通して基本的な技を身につける。柔道の授業では通常の授業と異なり「礼法」を重んじしっかりと意識で取り組むことを学ぶ。	・礼法、受け身、寝技などの基本技術習得のための復習練習 (2) ・立技の習得 (5) ・連絡技の習得 (3) ・実技テスト (2)		
	1～2 月	バスケットボール (15)	・基本技術の練習 (ドリブル・パス・シュート) と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では運動量を確保し、互いに協力する姿勢を養う。	・基本技術習得のための練習 (5) ・グループ技能を高める練習 (5) ・ゲーム形式 (5)		
	3月	クラス選択球技 (9)	・各クラスで球技を選択し、試合形式を中心に実践する。 ・これまで1年次、2年次で行った種目から複数の種目を実践する。	・9時間の球技、試合を中心に実践する。 ・運営、審判など生徒自身で行う		

平成31年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース			教科担任				
保健体育	体育	3	2年女子			猪股 整・齊藤 正明・北辻 厚規				
使用教科書	現代保健体育（大修館）			使用副教材						
科目の目標							道徳教育のねらい			
健康や体力について合理的に実践し、運動技能を高めるとともに、それらの経験を通して、公正・協力・責任などの態度を育て、強健な心身の発達を促して生涯を通して継続的に運動を実践できる能力と態度を育てる。							集団行動や授業準備、実技において、協力や思いやり、安全指導などを通じて道徳心を育てる。			
学習活動内容	市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解 自己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	◎				◎					
2		◎		◎						
3	○									○
4			◎			◎	○	○		○
5	○		○				○			◎
6		○	○		○	◎		○		
7	○	○					○			◎
8		○	◎		○	◎		○		
9			○							
10										
11										
12										
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現			知識・理解	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。		生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や中間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や中間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。			運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防の展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。			選択した運動の技能（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。	
評価の方法	授業の準備・後片付けなどへの協力姿勢、意欲的な取組・グループでの協力姿勢を評価		授業における練習の取組方、ワークシートでの評価			各種目における実技テスト、記録・発表会を評価			ペーパーテスト、または口頭試問による評価	

2年女子体育 授業計画

授 業 計 画					実施状況	
月 (時数)	単元・考査等 (配置時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前期	4・5月	体づくり運動・スポーツテスト ()	・授業オリエンテーション、集団行動・集団づくり、補強運動、スポーツテストを実施し自らの体力への理解を深め今後の授業にいかす。	・オリエンテーション (1) ・体づくり運動・スポーツテスト (9)・・・「体ほぐし運動」と「体力を高める運動」を通じて、心と体の状態を把握し仲間とともに運動に親しむための基礎を養う。		
	5月 6月 7月	体育理論 (3)	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・スポーツの技術と戦術 ・技能の上達過程と練習 ・効果的な動きのメカニズム (各1h)		
	5月 6月	ソフトボール (&バレーボール)	・基本技術の練習 (捕球・送球・打撃)と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では互いに協力する姿勢を養う。	・基本技術習得のための練習 (3) ・グループ技能を高める練習 (5) ・ゲーム形式 (7)		
	7・8月	選択種目Ⅰ (8)	・球技大会で実施する・「バレー」、「ソフト」 「混合バレー」から種目を選択し、技術向上、または仲間との連携を高め、工夫した取り組みを実践する。	・球技大会種目の練習 (8)		
	8月 9月	バドミントン (15)	・基本技術の習得 (打ち合い・クリアー・ドロップ・スマッシュなど)のための練習を行い、ゲーム形式を実施する。技能向上を目指す姿勢と仲間との協力する姿勢を養う。	・基本技術習得のための練習 (4) ・グループ技能を高める練習 (4) ・ゲーム形式 (7)		
体力診断テストの振り返り&課題改善の取り組み (3時間程度)						
後期	10月 11月	選択種目Ⅱ男女混合 (15)	・「バドミントン」、「卓球」「ソフトバレー」から1種目を選択し実施する。選択した種目のより高い技術や戦術を身につけ競技への理解を深める。	・基本技術習得のための練習 (3) ・グループ技能を高める練習 (3) ・ゲーム形式 (9)		
	10月 11月 12月	体育理論 (3)	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・技能と体力 ・体力トレーニング ・運動やスポーツでの安全確保 (各1h)		
	10~1 2 月	バスケットボールⅡ (12)	・基本技術の練習 (ドリブル・パス・シュート)と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では運動量を確保し、互いに協力する姿勢を養う。	・基本技術習得のための練習 (5) ・グループ技能を高める練習 (5) ・ゲーム形式 (5)		
	1~2 月	ダンスⅡ (創作) (15)	・創作ダンスを実施する。テーマを設定しそのイメージを具体化できるダンスをグループで作成する。作成したダンスを練習・発表を行う。 ・発表会を通して、自分の演技と他の者の演技を比較し互いに評価する。 ・グループ活動での積極的な取り組み、協調性と表現力を養う。	・ダンスの創作活動 (12) ・ダンス発表 (2) ・振り返り学習 (1)		
	3月	クラス選択球技 (9)	・各クラスで球技を選択し、試合形式を中心に実践する。 ・これまで1年次、2年次で行った種目から複数の種目を実践する。	・9時間の球技、試合を中心に実践する。 ・運営、審判など生徒自身で行う		

平成31年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科 担任				
保健体育	保健	1	2年次				北辻 厚規・石郷岡 純一				
使用教科書	現代保健体育（大修館）				使用副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）					
科目の目標							道徳教育のねらい				
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を身につけます。							健康的な生活習慣の確立や交通規範の向上、応急手当の実践から自らの安全だけではなく、他者への思いやりや他者との適切な関わりについて考えさせる。				
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解 自己管理能力	他者理解力	計画 実行力	発信 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	2 2	応急手当の意義とその予防	○		○	○					○
2	2 3	心肺蘇生法	○		○	○					○
3	2 4	日常の応急手当	○		○	○					○
4	1	思春期と健康		○			○				
5	2	性意識と性行動の選択		○			○				
6	3	結婚生活と健康		○				○			
7	4	妊娠・出産と健康	○						○		
8	5	家族計画と人工妊娠中絶	○	○	○	○	○				○
★前期期末考査											
9	※グループ学習&発表			◎	◎	○	○	○	◎		○
10	6	加齢と健康		◎	◎	○	○	○	◎		○
11	7	高齢者のための社会的取組		◎	◎	○	○	○	◎		○
12	8	保健制度とその活用		◎	◎	○	○	○	◎		○
13	9	医療制度とその活用		◎	◎	○	○	○	◎		○
14	10	医薬品と健康		◎	◎	○	○	○	◎		○
15	11	さまざまな保健活動や対策		◎	◎	○	○	○	◎		○
16	1	大気汚染と健康		◎	◎	○	○	○	◎		○
17	2	水質汚濁。土壌汚染と健康		◎	◎	○	○	○	◎		○
18	3	健康被害の防止と環境対策		◎	◎	○	○	○	◎		○
19	4	環境衛生活動のしくみと働き		◎	◎	○	○	○	◎		○
20	5	食品衛生活動のしくみ		◎	◎	○	○	○	◎		○
21	6	食品と環境の保健と私たち		◎	◎	○	○	○	◎		○
22	7	働くことと健康		◎	◎	○	○	○	◎		○
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現			知識・理解		
	生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。		生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。						生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。		
評価の方法	授業態度・ノートや提出物・出席状況で評価		授業でのグループ討議・発表、提出物で評価						定期考査や小テストで評価		

2年保健 授業計画

学 習 指 導 計 画					実施状況	
月 (時数)	単元・考査等 (配置時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前期 4月 5月 6月 7月 8月 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 2 2、応急手当の意義とその基本 2 3、心肺蘇生法 2 4、日常の応急手当 「生涯を通じる健康」 1、思春期と健康 2、性意識と性行動の選択 3、結婚生活と健康 4、妊娠・出産と健康 5、家族計画と人工妊娠中絶 <p>※前期試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の応急手当、心肺蘇生法の理論・知識を学び、 ・性教育を通じて、健全な性に関する知識と理解を深め、より健康的な生活を送れる資質と能力を養う。 ・ライフステージにおける健康問題について知識と高め、自らの人生設計に取り入れるとともに、保健制度について理解を深め、より健康的な生活を送るための知識、問題意識を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 2 2、応急手当の意義とその基本 2 3、心肺蘇生法 2 4、日常の応急手当 1、思春期と健康 2、性意識と性行動の選択 3、結婚生活と健康 4、妊娠・出産と健康 5、家族計画と人工妊娠中絶 		前期	
後期 10月 11月 12月 1月 2月 3月	<p>※グループ学習</p> <p>【範囲】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6、加齢と健康 7、高齢者のための社会的取り組み 8、保健制度とその活用 9、医療制度とその活用 1 0、医薬品と健康 1 1、さまざまな保健活動や対策 <p>「社会生活と健康」</p> <ul style="list-style-type: none"> 1、大気汚染と健康 2、水質汚濁・土壌汚染と健康 3、健康被害の防止と環境対策 4、環境衛生活動のしくみと動き 5、食品衛生活動のしくみと働き 6、食品と環境の保健と私たち 7、働くことと健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題に関する知識を深め、問題点や課題を理解し、自らのだけでなく地域・社会の健康のために必要な要素を学ぶ。 ・将来に向けて、働くことと健康についてより実践的で具体的な項目について学び、より健康を重視したライフスタイル確立のための資質や能力を養う。 ・グループ学習を通じて、単元の内容をより深く理解する。 ・グループ学習において自分達で課題を設定し、それについて調べ、その内容を授業形式で他の生徒が理解できるように発表する。 ↓ 探究とプレゼン力を高める活動を重視する。 	<ul style="list-style-type: none"> 6、加齢と健康 7、高齢者のための社会的取り組み 8、保健制度とその活用 9、医療制度とその活用 1 0、医薬品と健康 1 1、さまざまな保健活動や対策 1、大気汚染と健康 2、水質汚濁・土壌汚染と健康 3、健康被害の防止と環境対策 4、環境衛生活動のしくみと動き 5、食品衛生活動のしくみと働き 6、食品と環境の保健と私たち 7、働くことと健康 		後期	

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
音楽	音楽Ⅱ	2	2年次				成田 良太				
使用教科書	教育出版 音楽Ⅱ 改訂版 Tutti			使用副教材	啓隆社 Music Note 教育出版 New Recorder Library						
科目の目標							道徳教育のねらい				
音楽Ⅰの活動をふまえて、より感性を高め音楽文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。							音楽経験をとおり、深い美的情操と豊かな人間性を養い、円満な人格の発達をはかり、社会人としての教養を高める。				
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	歌唱（斉唱・合唱）	○		○					○		
2	器楽（リコーダー・ギター独奏・重奏）	○		○					○		
3	鑑賞	○	○		○						
4	楽典	○	○								
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
19	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
20	実技テスト	○	○					○	◎		
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現		知識・理解			
	・個性豊かで意欲的・主体的に音楽活動を行っているか。 ・音楽活動の喜びを味わおうとしているか。		・感性を働かせて、音楽の諸要を知覚しているか。 ・個性豊かで創造的な音楽活動の工夫をしているか。			・個性豊かに表現するための技能を身に付けているか。 ・創造的な表現をするための技能を身に付けているか。		・多様な音楽や音楽文化に対して理解を深めているか。 ・多様な音楽や音楽文化のよさや美しさを主体的に味わっているか。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	歌唱実技テスト	器楽実技テスト	ミュージカント	単元テスト	鑑賞レポート				
	関心・意欲・態度	◎									
	思考・判断	◎	○	○							
	技能・表現	○	◎	◎							
知識・理解	○				◎	◎		◎			

音楽Ⅱ 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4月	歌唱	歌に込められたメッセージを理解し表現する。	「見上げてご覧夜の星を」(10) 「愛の讃歌」 「枯葉」 「Moon River」 ソルフェージュ「コールユーブンゲン」	10	
	5月					
	6月	鑑賞	オペラ、バレエ、ミュージカルに関心をもつ。西洋の音楽劇について、歌唱と観賞を通じて総合的に理解する。	「キャッツ」(5)	5	
	7月	器楽	グループによる楽器のアンサンブルを通じて総合的な音楽学習を行う。	リコーダー四重奏(15) 「インスブルックよさようなら」 「私のいい人」 「水上の音楽」	15	
	9月	鑑賞	古典派の音楽の特徴をとらえそのよさを味わう。	「モーツァルト交響曲第40番」(5) 「アマデウス」(5)	10	
後 期	10月	歌唱	日本歌曲の特徴を知りそのよさを味わう。	「落葉松」(5) 「小さな空」(4)	15	
	11月	日本の歌 混声四部合唱	声のアンサンブルに主体的に取り組む。	「ほたるこい・聖者の行進」(6)		
	12月	器楽	出来上がったアンサンブルをイメージして練習に取り組む。	ギターアンサンブル	8	
	1月					
	2月	鑑賞		・ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番(2)	7	
	2月	総合能力	1年間のまとめとして、楽器のアンサンブル発表を行い、相互評価、自己評価を行う。	自由課題研究演奏(5)		
	3月					

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
芸術	美術Ⅱ	2	2年次				佐々木 龍				
使用教科書	日本文教出版 高校生の美術 2		使用副教材		なし						
科目の目標							道徳教育のねらい				
美術Ⅰでの学習内容を踏まえ、感性を一層豊かにし、美術を愛好する心情を育て、生涯にわたり美術を学び親しむための基礎を養う。							芸術を愛好し、美を探究する過程で、自然への感謝と生物に対する尊敬の念を持ち、他を思いやる心を育てる。				
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自 己管理力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1 導入・オリエンテーション				○	◎	○				○	
2 油彩画（静物画）		○	○	○		○	○	○	○	○	○
3 油彩画（人物画）		◎	○	○		○	○	○	○	○	◎
4 油彩画（小作品）		◎	○	○		○	○	○	○	○	○
5 美術館鑑賞			○	○	○	○	○			○	
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断			技能・表現			知識・理解			
	美術の文化を理解し、意欲的・主体的に授業に取り組んでいるか	感性や想像力を働かせて主 題を生成し、創造的な表現 の構想を練っているか			創造的な表現に必要な技能 を身に付け、表現方法を工 夫して表しているか			美術や美術文化を幅広く理解 し、そのよさや美しさを創造 的に味わうことができるか			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	作品	発表	鑑賞						
	関心・意欲・態度	○		◎	○						
	思考・判断	◎	◎	◎							
	技能・表現	○	◎	○							
知識・理解	◎	◎	○	◎							

美術Ⅱ 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
月 (時 数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4月 油彩画（静物画）	<ul style="list-style-type: none"> ・油彩画についての基本的な知識を習得し、これからの制作に対する意欲を高める ・身近なモチーフを油絵の具という画材を用いて、対象物の美しさを感じ取り、それを絵画として表現することによってより奥深い世界を味わう 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント、教科書による解説 ・油彩画材の使用法についての解説（4） ・果物やガラス瓶などのモチーフを用い、キャンバスの比率を計算して下描きする（24） ・キャンバスと原画を分割して模写する ・油絵具で彩色する ・作品の講評 	4 24		
	8月 美術館鑑賞 (会期に合わせて挿入)	<ul style="list-style-type: none"> ・本物の絵画や彫刻に触れ、そのよさを知るとともに美術を愛する心情を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・函館美術館を訪問し、学芸員の方からの解説を受け、作品を鑑賞する（2） 	2		
	9月 油彩画（自画像）	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡を通して見る自分を観察し油彩画として表現する ・画家のタッチを参考にし、重厚な表現を出せるように意識する 	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡を見ながら鉛筆デッサンをする ・参考となる画家のタッチや表現を研究し、それらをもとに自画像を制作する（5） 	5		
後 期	10月 ～1月 油彩画（自画像）続き	<ul style="list-style-type: none"> ・前期と同様 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成度を高めるための技法や表現を学び、作品を仕上げる（25） 	25		
	2月 ～3月 油彩画（小作品の制作）	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいキャンバスに自由な空想画を制作する ・油絵の具の特性（マチエル）を活かした作品作りを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の中の世界をイメージし、抽象的な表現を学び、油彩画の技法を用いてそれを表現する ・鑑賞を通して互いの世界観を認め、感性を豊かにする 	10		

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科	科 目	単位数	年次・コース				教 科 担 任				
芸 術	書道Ⅱ	2	2年次				鈴 木 孝 徳				
使用教科書	光村図書 書Ⅱ			使用副教材	プリント書道（教科担任作成教科書準拠）						
科 目 の 目 標							道徳教育のねらい				
書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、書写能力と芸術性を探究することを目標とする。							芸術を愛好し、美を探究する過程で、自然への感謝と生物に対する尊敬の念を持ち、他を思いやる心を育てる。				
学習活動内容		市函D.P.（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自己 管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	篆刻	○	○					○			○
2	楷書	○		○			○		○		○
3	行草書	○	○	○			○		○		○
4	篆書	○	○	○			○		○		○
5	漢字かな交じり	○	○	○		○		○	○		○
6											
7											
8											
9											
10											
12											
15											
16											
17											
18	探究心プリント	○	○	○		○	○	○	○		○
19	作品選別・批評会	○	○	○	○	○	○		○	○	○
20	展覧会レポート課題	○	○	○		○	○		○		○
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断			技能・表現			知識・理解			
	技術の向上・表現活動への探究心、鑑賞活動への積極的参加	法帖の解釈、ことばの解釈 作品批評			用筆法、構成力、生命感			書道史、書道用語、書道一般常識			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		臨 書	創 作	作 品	探究心プリント	作品選別・批評会	展覧会レポー				
	関心・意欲・態度			◎	○	○	○				
	思考・判断	◎	◎	○	◎	◎	◎				
	技能・表現	○	◎	◎			○				
知識・理解	◎	○	○	◎	○	○					

書道Ⅱ 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況			
月 (時 数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省			
前 期	4月	篆刻	篆刻	篆刻基本(2)	10			
	5月						自由課題	デザイン(2)
	6月							
	7月	楷書	各自選択法帖基礎(3)					
	8月			時代背景・書法・用筆(3)				
	行草書						作品制作(8)	
		批評会(選別・批評)(1)						
			連綿行草書(東晋・唐)	各自選択法帖基礎(3)				
	時代背景・書法・用筆(3)							
作品制作(8)								
		9月	批評会(選別・批評)(1)					
	後 期	10月		篆書	自由課題	各自選択法帖基礎(3)	15	
11月		時代背景・書法・用筆(3)						
12月			作品制作(8)					
漢字かな交じりの書				近代詩文書	漢字かな交じり書基本(3)			
		撰文・構成・草稿(3)						
			作品制作(8)					
1月	批評会(選別・批評)(1)							
2月		漢字かな交じり書基本(3)						
3月			撰文・構成・草稿(3)					
1月	作品制作(8)							
2月		批評会(選別・批評)(1)						
3月			漢字かな交じり書基本(3)					
1月	撰文・構成・草稿(3)							
2月		作品制作(8)						
3月			批評会(選別・批評)(1)					

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	4	2年次				塩村 亮・山柿 英夫 鈴木 健人・内村 歎子				
使用教科書	Revised LANDMARK English Communication II (Ⅱ338)		使用副教材		Revised LANDMARK English Communication II ワークブック 夢をかなえる英単語 新ユメタン1 (アルク)						
科目の目標							道徳教育のねらい				
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。							①言語活動を通じ人間との関わりを築き互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ②各単元の題材を通じ、世の中の様々な事象に関心を持ち、積極的に関わる姿勢を養う。				
学習活動内容		市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	First Reading		◎		○						
2	各パートの理解とリテリング			◎			○				
3	Post Reading		◎			○	○				
4	Output					○	○		◎		
5	Comprehension 及び Exercises	◎									
6	課題提出							○			
7	考査	◎						○			
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解			
	意欲的に授業に臨み、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。	テーマについて自分の考えや意見を英語で話したり書いたりして、表現できるか。			英文を聞いたり読んだりすることで、主題や要点を把握したり、他人の考えや意見を英語で理解することが出来るか。			文法や語彙、発音等に関する知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解できたか。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業でのコミュニケーション活動	課題への取組	定期考査	パフォーマンステスト	課題確認テスト					
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	◎	○	○	○						
	外国語表現の能力	○	○	○	◎						
	外国語理解の能力	○		◎		○					
言語や文化についての知識・理解				○	◎						

コミュニケーション英語Ⅱ 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
月 (時数)	単元・ 考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4 (13)	オリエンテーション(1) Lesson 1 I'm the Strongest!(12)	<題材>車イステニスを通じて、努力を重ねることの大切さを知る。 <文法> 繰り返しを避けるための省略、過去完了進行形について理解する。	オリエンテーション(1) First Reading (1) 各パートの理解とリテリング (6) Post-Reading (2) Output (2) Comprehension 及び Exercises (1)		
	5 (14)	Lesson 2 Tokyo's Seven-minute Miracle (14)	<題材>・新幹線の車両清掃の仕事を通じて、誇りを持って働くことの大切さを知る。 <文法>強調のための倒置、形式目的語について理解する。	First Reading (1) 各パートの理解とリテリング (8) Post-Reading (2) Output (2) Comprehension 及び Exercises (1)		
	6 (14)	中間考査 (1) 自己評価 (1) Lesson3 Saint Bernard Dogs (12)	<題材>ジャックの研究を通じ、世界を変えるために何ができるか考える。 <文法>動名詞の意味上の主語、疑問詞+do you think + (S') +V'?. 未来進行形について理解する。	中間考査 (1) 自己評価 (1) First Reading (1) 各パートの理解とリテリング (6) Post-Reading (2) Output (2) Comprehension 及び Exercises (1)		
	7 (7)	授業内多読(1)	<題材>シャネルの生涯を通じて、自分の生き方を考える。 <文法>S+V+分詞/S+V+O+分詞、付帯状況を表すwith+O+Cについて理解する。	授業内多読(1) First Reading (1) 各パートの理解とリテリング (6) Post-Reading (2) Output (2) Comprehension 及び Exercises (1)		
	8 (6)	Lesson 4 Chanel's Style (12)				
	9 (14)	期末考査 (1) 自己評価 (1) Lesson 5 Science of Love(12)	<題材>恋の科学を知り、科学に関する関心を高める。 <文法> 同格のthat節、疑問詞+do you think(+S)+Vについて理解する。	期末考査 (1) 自己評価 (1) First Reading (1) 各パートの理解とリテリング (6) Post-Reading (2) Output (2) Comprehension 及び Exercises (1)		
	10 (12)	Lesson 6 Gaudi and His Messenger (12)	<題材> ガウディーとサグラダ・ファミリア、外尾について理解する。 <文法> 独立分詞構文、関係副詞の非限定用法について理解する。	First Reading (1) 各パートの理解とリテリング (6) Post-Reading (2) Output (2) Comprehension 及び Exercises (1)		
	11 (14)	授業内多読(1) Lesson7 Letters from a Battlefield (13)	<題材>硫黄島の戦いや兵士が家族に宛てた手紙について理解する。 <文法>譲歩を表す複合関係詞、動名詞の意味上の主語について理解する。	授業内多読(1) First Reading (1) 各パートの理解とリテリング (7) Post-Reading (2) Output (2) Comprehension 及び Exercises (1)		
	12 (12)	中間考査 (1) 自己評価 (1) GTEC(3)	Lesson 8 <題材>江戸の暮らしから環境に優しい暮らしを考える。 <文法>注意すべき関係代名詞の非限定用法、独立分詞構文について理解する。	中間考査 (1) 自己評価 (1) GTEC(3)		
1 (8)	Lesson 9 AI and Our Future(12)	Lesson 9 <題材>AIやディープラーニングについて理解し、人間との共存のあり方を考える <文法>as if[though]+仮定法、助動詞+have+過去分詞について理解する。	Lesson 8 First Reading (1) 各パートの理解とリテリング (6) Post-Reading (2) Output (2) Comprehension 及び Exercises (1)			
2 (12)	学年末考査 (1) 自己評価 (1) 授業内多読(1)		Lesson 9 First Reading (1) 各パートの理解とリテリング (6) Post-Reading (2) Output (2) Comprehension 及び Exercises (1)			
3 (14)	Lesson10 Bhutan: A Happy Country (12) 1年のまとめ(2)	<題材>ブータンの暮らしから幸せな国のありからを考える。 <文法>強調構文、副詞節中の<S+be>の省略について理解する。	First Reading (1) 各パートの理解とリテリング (6) Post-Reading (2) Output (2) Comprehension 及び Exercises (1)			
			1年のまとめ (2)			

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
外国語	英語表現Ⅱ（前半）	2	2年次				塩村 亮・山柿 英夫 鈴木 健人・内村 歆子				
使用教科書	Vision Quest English Expression II Hope (啓林館)			使用副教材	Vision Quest English Expression II Hopeワークブック						
科目の目標							道徳教育のねらい				
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。							言語活動を通じ人間との関わりを築き互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を養う。				
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自己 管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	Build Up/Practice（文法・『学び合い』）	◎	○	○	○	○	○	○			
2	Model Conversation/Visual Image（会話）				○				◎		
3	Expressing（会話・作文）						○		◎		
4	Grammar Focus（文法）	◎									
5	Activity for Communication（会話・作文）						○		◎		
6	単元や学習内容、 活動内容など教科の特性により 自由に設定。										
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
6	Part 2(Essay Writing)		○	○					◎		
7	Part 3(Presentation)		○	○		○	○	○	◎		
19	課題提出	○						◎			
20	考查	◎						○	◎		
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解			
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。			英語を聞いたり英文を読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。			英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、背景にある文化などを理解している。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業でのコミュニケーション活動	課題への取組	定期考查	パフォーマンステスト						
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	◎	○	○	○						
	外国語表現の能力	○	○	○	◎						
	外国語理解の能力	○			◎						
言語や文化についての知識・理解				○							

英語表現Ⅱ 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
4月 (6)	Useful Classroom English(1)					
	Part 1 Lesson 1 You have several traditional events. (4)	数量や所要時間を尋ね、答える。/行事の説明に必要な項目を挙げ、英文にまとめる。/例文を元に、英語では主語を明確にした上で文を作ることを学ぶ。	Build-up、Practice (2) Model Conversation + Visual Image (1) Expressing (1)			
	Grammar Focus1(1)	名詞と冠詞				
	5月 (6)	Part 2 Lesson 1 (1)	パラグラフの構成/列挙・順序			
Activity for Communication (1)	Lesson 2 How did your work experience go? (4)	放課後の行動や特定の感情を持つ時を尋ね、答える。/クラブ活動の経験を振り返ってメモし、英文にまとめる。/動詞を選択し、目的語と補語を適切に用いて様々な文型の文を作る。	Build-up、Practice (2) Model Conversation + Visual Image (1) Expressing (1)			
	①Storytelling					
6月 (8)	前期中間考査 (1)					
	自己評価 (1)					
	Lesson 3 Let me tell you a story. (4)	行動の動機や相手に望む行動について尋ね、答える。/話の流れを考え、最後に明かすオチを過去完了形で表現する。/使役動詞・知覚動詞の使い方、〈動詞+人+to do〉で不定詞の意味上の主語の表し方を学ぶ。	Build-up、Practice (2) Model Conversation + Visual Image (1) Expressing (1)			
	Activity for Communication (1)	②Role Play				
Grammar Focus2(1)	Lesson 4 I want to work as an air traffic controller. (4)	継続している行動や興味を持った経緯を尋ね、答える。/将来就きたい職業を考え、その実現に必要なこととともに英文にまとめる。/日本語を直訳するのではなく、状況に応じて適切な時制や表現を選	Build-up、Practice (2) Model Conversation + Visual Image (1) Expressing (1)			
	8月 (4)	Part 2 Lesson 2 (2)	パラグラフを書く② (例示・追加)			
Part 2 Lesson 3 (2)	Part 2 Lesson 3 (2)	パラグラフを書く③ (比較・対照)				
	9月 (7)	前期末考査 (1)				
自己評価 (1)						
Grammar Focus3(1)		受動態				
Lesson 5 I wish I could have such an experience again. (4)	Lesson 5 I wish I could have such an experience again. (4)	助言を求めたり与えたりする。仮定の状況を話し合う。/100万円があれば自分・家族・友人・他の人々に対して何をしたいかを列挙する。/話し手の気持ちや判断を表す助動詞・仮定法の使い方を学ぶ。	Build-up、Practice (2) Model Conversation + Visual Image (1) Expressing (1)			
	10月 (8)	Lesson 6 This is a photo taken in Vancouver, Canada. (4)	名所・名産地や職業・仕事内容を尋ね、答える。/写真とその時の思い出を説明し、今の感想を伝える。/前置詞句や不定詞・分詞・関係詞など名詞を修飾する形容詞的用法を学ぶ。	Build-up、Practice (2) Model Conversation + Visual Image (1) Expressing (1)		
Lesson 7 Are cell phones an essential part of our lives? (4)		日頃の心がけや気分について尋ね、答える。/ブレインストーミングを行い、携帯電話の長所・短所をまとめる。/前置詞句や不定詞・分詞・接続詞が導く節などの	Build-up、Practice (2) Model Conversation + Visual Image (1) Expressing (1)			
11月 (7)	Grammar Focus4(2)	前置詞				
	Activity for Communication (1)	③Listening for Number				
	Activity for Communication (1)	④Writing an Email				
	Activity for Communication (1)	⑤Reading Graphs				
	Part 2 Lesson 4 (1)	パラグラフを書く④ (原因・理由・結果)				
	Part 2 Lesson 5 (1)	パラグラフを書く⑤ (要点・要約)				
12月 (6)	後期中間考査 (1)					
	自己評価 (1)					

期

	Lesson 8 Which do you like better, cats or dogs? (4)	二択で好みを尋ねたり、一番であるものを尋ねたりする。/犬と猫の特徴をまとめ、好きな方を理由とともに英文にまとめる。/原級・比較級・最上級を使った比較表現を学ぶ	Build-up、Practice (2) Model Conversation + Visual Image (1) Expressing (1)
1月 (4)	Grammar Focus5(2)	比較表現	
2月 (6)	Part 3 Lesson 1 前半 (6)	プレゼンテーション	テーマの選定・ブレインストーミング 原稿の執筆
	後期期末考査 (1) 自己評価 (1)		
3月 (4)	Part 3 Lesson 1 後半 (4)	プレゼンテーション	発表の準備 発表

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任							
英語	英語研究A (標準)	2	2年次	内村 歆子							
使用教科書	第一学習社 Seek neo THIRD EDITION 2 総合英語 Ultimate		使用副教材	なし							
科目の目標				道徳教育のねらい							
「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅱ」と並行して、英語の文法、構文を発展的に学習し、表現力、語彙力など様々な分野の英文読解への応用力を高め、コミュニケーション能力を向上させる。				英語を通じて、人間の関わりを築き、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を養う。							
市函DP (本校で身に付けさせたい資質・能力)											
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自 己管理力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール	実践力
1	習得すべき文法の演習	◎		○							
2	各文法事項をふまえた整序作文や短文を書く	◎		○							
3	各文法事項を含んだ長文読解	○		○							
4	各文法事項を踏まえた英文を用いて日常的な話題など伝える		◎		○	○			○		
5	グループワーク		○	○	○	○	○		○		
6	小テスト	○	○					○			
7	考査	○	○					○			
評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解			
	積極的に授業に参加し、コミュニケーションを図ろうとしているか。	習得した文法事項を用いて自己を表現できるか			日本語と英語の構造の違いを理解し、既習の文法・表現を利用しながら未習の英文を理解できるか。			日本語と英語の違いを理解し、基礎的な知識を身につけている。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取り組み	小テスト	パフォーマンステスト			定期考査				
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	○								○	
	英語表現の能力	○	○			○				◎	
	英語理解の能力	○	○			○				◎	
言語や文化についての知識・理解	○								○		

英語研究A (標準) 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4 (6)	Lesson1 文の種類 (3)	疑問詞を使った疑問文・間接疑問文を理解する。	基本事項の確認・問題演習 (2) 英作文・速読・リスニング(1)		
		Lesson2 文型 (4)	5文型を通して、英文の基本構造を理解する。	基本事項の確認、問題演習 (2) 英作文・速読・リスニング(1) 長文読解 (1)		
	5 (6)	Lesson3 時制① (3)	現在完了形、現在完了進行形を理解する。	基本事項の確認・問題演習(2) 英作文・速読・リスニング(1)		
		Lesson4 時制② (4)	現在完了形、過去完了形を理解する。 動詞の活用と時制の関係について理解する。	基本事項の確認、問題演習(2) 英作文・速読・リスニング(1) 長文読解(1)		
	6 (8)	前期中間考査 (1)				
		Lesson5 助動詞 (3)	助動詞の意味・注意すべき表現を理解する。	基本事項の確認・問題演習(2) 英作文・速読・リスニング(1)		
		Lesson6 受動態 (3)	受動態の構文を理解する。 各文型の受動態と助動詞＋受動態	基本事項の確認・問題演習(2) 英作文・速読・リスニング(1)		
	7 (4)	Lesson7 to不定詞① (3)	to不定詞の基本用法を定着させる。be+形容詞+to不定詞の構文を定着させる。	基本事項の確認・問題演習(2) 英作文・速読(1)		
	8 (4)	Lesson8 to不定詞② (3)	知覚動詞・使役動詞の不定詞を理解する。	基本事項の確認・問題演習(2) 英作文・速読(1)		
	9 (7)	前期期末考査 (1) Lesson9 動名詞 (3)	動名詞の働きを理解し、動詞の目的語になる不定詞と動名詞を理解する。	基本事項の確認・問題演習(2) 英作文・速読(1)		
	Lesson10 分詞 (4)	分詞の働きを理解し、分詞構文を理解する。	基本事項の確認・問題演習(2) 英作文・速読・リスニング(1) 長文読解(1)			
後 期	10 (8)	Lesson11 比較 (3)	比較級を用いた様々な表現を理解する	基本事項の確認・問題演習 (2) 英作文・速読・リスニング (1)		
		Lesson12 接続詞 (4)	名詞節、副詞節を導く接続詞を理解する。	基本事項の確認・問題演習 (2) 英作文・速読・リスニング (1) 長文読解 (1)		
	11 (7)	後期中間考査 (1) Lesson13 関係詞① (3)	関係代名詞の基本を理解する。	基本事項の確認・問題演習 (2) 英作文・速読・リスニング (1)		
		Lesson14 関係詞② (4)	関係代名詞what、関係副詞を理解する	基本事項の確認・問題演習 (2) 英作文・速読・リスニング (1) 長文読解 (1)		
		Lesson15 仮定法 (3)	仮定法過去、仮定法過去完了を理解する。また、Ifを使わない仮定法の表現を理解する。	基本事項の確認・問題演習 (2) 英作文・速読・リスニング (1)		
	12 (6)	後期中間考査 (1) 英語文法・構文の発展的内容の学習 (15)	文法・構文の知識を英作文やエッセイライティングに活用できる表現力を養う。	英語文法の発展的演習 (4) 英語構文の発展的演習 (4)		
	1 (4)			英語文法・構文の英作文への応用 (4)		
2 (6)			エッセイライティング (3)			
3 (4)	後期期末考査 (1)					

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
英語	英語研究A(発展)	2	2年次				山 柿 英 夫				
使用教科書			使用副教材		第一学習社 Seek neo THIRD EDITION 3 総合英語 Ultimate						
科目の目標						道徳教育のねらい					
「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅱ」と並行して、英語の文法、構文を発展的に学習し、表現力、語彙力など様々な分野の英文読解への応用力を高め、コミュニケーション能力を向上させる。						英語を通じて、人間の関わりを築き、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を養う。					
市函D P (本校で身に付けさせたい資質・能力)											
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8		
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力		
1	習得すべき文法の演習	◎		○							
2	各文法事項をふまえた整序作文や短文を書く	◎		○							
3	各文法事項を含んだ長文読解	○		○							
4	各文法事項を踏まえた英文を用いて日常的话题など伝える		◎		○	○			○		
5	グループワーク		○	○	○	○	○		○		
6	小テスト	○	○					○			
7	考査	○	○					○			
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解			
	積極的に授業に参加し、コミュニケーションを図ろうとしているか。	習得した文法事項を用いて自己を表現できるか			日本語と英語の構造の違いを理解し、既習の文法・表現を利用しながら未習の英文を理解できるか。			日本語と英語の違いを理解し、基礎的な知識を身につけている。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	小テスト	パフォーマンステスト	定期考査						
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	○				○					
	英語表現の能力	○	○	○	◎						
	英語理解の能力	○	○	○	◎						
言語や文化についての知識・理解	○				○						

英語研究A（発展） 授業計画

授 業 計 画				実 施 状 況			
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省		
前 期	4 (6)	Lesson1 文型 (3) 文型その2 (4)	5文型を通して、英文の基本構造を理解する。	基本事項の確認、問題演習 (2) 英作文・速読・リスニング(1) 応用問題演習 (2) 応用英作文・速読・リスニング(1) 長文読解 (1)			
	5 (6)	Lesson2 時制① (3) Lesson3 時制② (4)	現在完了形、現在完了進行形を理解する。 現在完了形、過去完了形を理解する。 動詞の活用と時制の関係について理解する。	基本事項の確認・問題演習(2) 英作文・速読・リスニング(1) 基本事項の確認、問題演習(2) 英作文・速読・リスニング(1) 長文読解(1)			
	6 (8)	前期中間考査 (1) Lesson4 助動詞 (3) Lesson5 受動態 (3)	助動詞の意味・注意すべき表現を理解する。 受動態の構文を理解する。各文型の受動態と助動詞+受動態	基本事項の確認・問題演習(2) 英作文・速読・リスニング(1) 基本事項の確認・問題演習(2) 英作文・速読・リスニング(1) 長文読解 (1)			
	7 (4)	Lesson6 不定詞① (3)	to不定詞の基本用法を定着させる。 be+形容詞+to不定詞の構文を定着させる。	基本事項の確認・問題演習(2) 英作文・速読(1)			
	8 (4)	不定詞その2 (3)	知覚動詞・使役動詞の不定詞を理解する。	応用問題演習(2) 応用英作文・速読(1) 長文読解 (1)			
	9 (7)	前期期末考査 (1) Lesson7 動名詞 (3) Lesson8 分詞 (4)	動名詞の働きを理解し、動詞の目的語になる不定詞と動名詞を理解する。 分詞の働きを理解し、分詞構文を理解する。	基本事項の確認・問題演習(2) 英作文・速読(1) 基本事項の確認・問題演習(2) 英作文・速読・リスニング(1) 長文読解(1)			
	後 期	10 (8)	Lesson9 比較 (3) Lesson10 関係詞① (4) 後期中間考査 (1)	比較級を用いた様々な表現を理解する。 関係代名詞の基本を理解する。	基本事項の確認・問題演習 (2) 英作文・速読・リスニング (1) 基本事項の確認・問題演習 (2) 英作文・速読・リスニング (1) 長文読解 (1)		
		11 (7)	Lesson11 関係詞② (3) Lesson11 関係詞②その2 (4)	関係代名詞の基本を理解する。 関係代名詞what、関係副詞を理解する 複合関係詞の基本を理解する	基本事項の確認・問題演習 (2) 英作文・速読・リスニング (1) 基本事項の確認・問題演習 (2) 英作文・速読・リスニング (1) 長文読解 (1)		
		12 (6)	Lesson12 仮定法 (3) 後期中間考査 (1) Lesson13 仮定法 (3)	仮定法過去、仮定法過去完了を理解する。また、Ifを使わない仮定法の表現を理解する。 仮定法の応用演習	基本事項の確認・問題演習 (2) 英作文・速読・リスニング (1)		
1 (4)		英語文法・構文の発展的内容の学習 (15)	文法・構文の知識を英作文やエッセイライティングに活用できる表現力を養う。	英語文法の発展的演習 (4) 英語構文の発展的演習 (4) 英語文法・構文の英作文への応用 (4)			
2 (6)		Lesson14 名詞・冠詞・代名詞	名詞・冠詞・代名詞の基本を理解する	基本事項の確認・問題演習 (2)			
3 (4)		後期期末考査 (1) Lesson15 形容詞・副詞	形容詞・副詞の基本を理解する	基本事項の確認・問題演習 (2)			

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任							
外国語	実用英語	2	2	塩村 亮							
使用教科書	なし		使用副教材	講師作成教材							
科目の目標				道徳教育のねらい							
ALTとの授業、多読、プレゼンテーション等を通して、実践的コミュニケーション能力を育成する。				外国語教育を通して他者の意見を尊重しながら伝え合う姿勢を身につけさせると同時に、自国および他国の言語・文化を理解し、国際人としての道徳観を育成する。							
市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）											
学習活動内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自己 管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	多読			◎							
2	プレゼンテーション		◎	○	○			○	◎		
3	エッセイライティング		○	○					◎		
4	授業での英語の使用	○					○		◎		
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解			
	積極的に授業に参加し、コミュニケーションを図ろうとしているか。	既習の語彙・文法を用いて、自分の意見を英語で表現できるか。			既習の文法・語彙・表現を活用し、未習の英文や英語の音声による情報を理解・			語彙語法・文法の知識があるか。日本語と英語の文法の違いを理解しているか。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		多読	プレゼンテーション	エッセイ	授業での英語の使用						
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	○	○		○						
	外国語表現の能力	○	○	○							
	外国語理解の能力	○	○	○							
言語や文化についての知識・理解				○							

実用英語 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
	月 (時)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 期	4月 (5)	○オリエンテーション	学習の流れ、方法を理解する。 クラスメイトと英語で交流する。	・オリエンテーション(1) ・自己紹介、他者紹介(4)		
	5月 (8)	○多読・プレゼンテーション ○エッセイライティング	多読：平易な英文を大量に読む ことで、既習の語彙・文法を活用 する方法を身につける。	以下の目標達成のため、各自で学習を進める 適時、教師の支援を受ける。		
	6月 (8)		プレゼンテーション：自分の考え 英語で伝える活動を通じ、既習の 語彙・文法を活用する方法を 身につける。	多読：40000語読破 プレゼン：1分程度 2本、3分程度 1		
	7月 (4)		エッセイ：英字新聞の記事を要約 し、それに対する自分の考えを書 く。	エッセイ：100語程度 週に1本		
	8月 (3)					
	9月 (6)					
後 期	10月 (7)	○多読・プレゼンテーション e-learning	多読：平易な英文を大量に読む ことで、既習の語彙・文法を活用 する方法を身につける。	以下の目標達成のため、各自で学習を進める 適時、教師の支援を受ける。		
	11月 (8)		プレゼンテーション：自分の考え 英語で伝える活動を通じ、既習の 語彙・文法を活用する方法を 身につける。	多読：80000語読破 プレゼン：3分程度 2本、5分程度 1 エッセイ：160～200語程度 週に1本		
	12月 (5)		エッセイ：自分のことや調べた事 柄について、自分の英語で表現す			
	1月 (5)					
	2月 (7)					
	3月 (4)			学習のまとめ	自己評価・他者評価(1)	

2019年度 市立函館高等学校 シラバス (総合的な学習の時間)

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
総合	総合的な学習の時間	1	2年次				2年次教員				
使用教科書			使用副教材								
科目の目標							道徳教育のねらい				
横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。							自ら課題を見つけ、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方や考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を身に付けることで、よりよい道徳的な判断力を養う。				
学習活動内容		市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	プレゼンテーション	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎		
2	課題研究 (前半)	◎	◎	◎	○		○	○	○		
3	講演会	○	◎	○	◎						
4	出前講義 (1・2年次)		◎		◎	◎					
5	課題研究全体発表会参観				◎		◎				
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断			技能・表現			知識・理解			
	現代社会の課題を多面的に学び、自ら課題を発見し、課題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組むことができている。	自ら見付けた課題について、調査研究し、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を身に付けている。			課題解決に向けて、情報を調べ活用する能力や他者にわかりやすく伝える能力を身に付けている。			社会と自分との関わりの中、課題解決に向けた取り組みや探究活動により、自己の在り方生き方を考えることができる。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業への取り組み	課題への取り組み	グループワーク	自己評価・相互評価	発表内容	作品 (レポート等)				
	関心・意欲・態度	◎	◎	○	○						
	思考・判断		○	◎	○	◎					
	技能・表現			○	○		◎		◎		
知識・理解	◎	◎			◎						

総合的な学習の時間 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4 5	プレゼンテーション (13)	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えを主体的かつ論理的に整理し、説得力をもって発表することを学ぶ。 ・問題解決や探求活動に主体的かつ創造的に取り組む態度を育て、自己の生きる方向性を考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション (2) ・即興スピーチ (グループワーク) (2) ・いちほプレゼンテーション (ブレイン・ストーミング・理論構築) (2) ・いちほプレゼンテーション (台本作成・リハーサル) (3) ・クラス発表会 (2) ・年次発表会 (2) 		
	6	講演会 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の第一線で活躍する方の講演を聴くことで、生徒の視野を広げ、多様な生き方を考えさせる。 	講演会 (3)		
		出前講義 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の先生や職業人による講義を受けることで、学問や学科についてのイメージを具体化し、科目選択や文理選択に具体的な自分の将来像を結びつける。 	出前講義 (3)		
	9	課題研究全体発表会参観 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次生の発表を見学し、本校の「課題研究」の在り方を理解する。 ・発表内容を聴き、内容を理解する力と自分自身の学びにつなげる力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究全体発表会参観 (1) 		
後 期	10					
	11	課題研究 (14)	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの大きな柱「自己を知る」、「社会・学問を知る」、「表現力を磨く」を立てて取り組んできた総合的な学習の時間の集大成として課題研究に取り組む。 ・自分が学びたいと考える学問や社会において探求したいと考える事柄、就きたい職業の仕事の内容などを、より具体的に調べ考察し、論文に仕上げ、発表する。 ・この活動を通じて、自分の探求していく夢を持ち、進みたい大学・学部や職業をより確信を持って目指す契機とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション (1) ・テーマ探求 I・II (2) ・アウトライン ver. 0~2 作成 (9) ・中間発表会 (2) 		
	12					
	1					
	2					
	3	ポートフォリオ (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の学習内容を振り返り、学習の成果をeポートフォリオに記録する。 	ポートフォリオ (1)		

2019年度 市立函館高等学校 シラバス (函館学)

教科	科目	単位数	年次・コース				教科担任				
総合	函館学	0~2	全年次・選択				総学部担当教員・外部講師				
使用教科書				使用副教材							
科目の目標						道徳教育のねらい					
国際性と進取の精神を持つ郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について学ぶことで、豊かな教養を身に付けるとともに、社会における自己の役割を再認識し、地域の振興に向けて、自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する資質や態度を育てる。						国際性と進取の精神を持つ郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について学ぶことで、郷土を愛し、郷土の振興のために尽力する態度を養う。					
学習活動内容		市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自 己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	外部公開講座受講	◎	◎	◎	◎				○		◎
2	はこだて検定	◎	◎	◎				○			
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断			技能・表現			知識・理解			
	郷土 函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について主体的に学んでいる。	地域課題に係わる活動に関心を持ち、公開講座やボランティア活動などへの参加を通じて、よりよく解決する資質を身につけている。			地域課題の解決に向けた活動などにより、自分の学びを他者に関わりやすく伝えることができる。			地域と自分との関わりの中、課題解決に向けた活動などにより、自己の在り方生き方を考えることができる。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		講座や活動への取り組み	地域課題への取り組み	報告レポート							
	関心・意欲・態度	◎	◎	◎							
	思考・判断	◎		◎							
	技能・表現			◎							
知識・理解			◎	◎							

函館学（選択） 平成30年度 開講講座等実績

授 業 計 画					実 施 状 況	
月 (時数)	開講講座	学習のねらい	学習内容	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4 第1回函館てらこや	郷土函館・道南圏の「歴史」、「文化」、「産業」、「自然」、「人物」、「地域課題」等について総合的に学ぶ。	てらこや 地域子ども達に学び・遊びの場を提供し、保護者・大人のボランティア・学生ボランティアが交流し地域を盛り上げていこうという活動を通じて、コミュニティのあり方や地域全体で行う子育て・教育のあり方について考える。			
	5 第2回函館てらこや		第1回 CCH合同公開講座 『函館学2018』 「温故知新 先人の実践を探る」			
	6 第3回函館てらこや		第2回 郷土の歴史講座 「箱館戦争と碧血碑百五十回忌、追悼・記念講演会」			
	第1回 CCH合同公開講座 『函館学2018』		第2回 CCH合同公開講座 「ロシア人から見た函館と石川啄木、与謝野晶子の短歌」			
	7 第4回函館てらこや		CCH加盟校主催『函館学』講座 「海の巨大な渦：海の中にも高気圧と低気圧がある」			
	第2回 CCH合同公開講座 『函館学2018』		CCH加盟校主催『函館学』講座 「凍る海のプランクトンと環境変動」			
	8 CCH加盟校主催『函館学』講座 第5回函館てらこや		文化体験学習ツアー 北前船が運んだ商業や文化を体験			
	9 CCH加盟校主催『函館学』講座 第6回函館てらこや 文化体験学習ツアー					
	後 期		10 未来大市民公開講座 第7回函館てらこや		未来大市民公開講座 「使いやすさの認知心理学」(10/6) 「文字認識から自動運転まで 一画像認識入門」(10/13) 第6・7回 郷土の歴史講座 「函館は文化の十字路口 ～様々な宗教の中で育まれてきた街～」(10/13) 「公家・清水谷公考の”青雲の志”とその挫折 一箱館裁判所・箱館府創設と箱館戦争の狭間一」(10/27)	
第6・7回 郷土の歴史講座		学生政策アイデアコンテスト 高校生大学生に「函館の街を活性化させる、元気にするための政策」を学生限定でアイデアを募集するコンテスト 第13回函館歴史文化観光検定				
11 はこだて学生政策アイデアコンテスト はこだて検定 第8回函館てらこや		第3回 合同公開講座 『函館学2018』 日本中世の貨幣をめぐる諸問題				
12 第3回 合同公開講座 『函館学2018』						
第9回函館てらこや						
1 第10回函館てらこや						
2 第11回函館てらこや						
3 第12回函館てらこや						

※函館学（選択）は『函館学ニュース』で随時案内するため、年度により開講講座が異なることから、前年度の実施実績とする。